

いわて復興応援隊
活動事例

2012（平成24）年度



2011年3月～2012年3月の県内の主な出来事

- 2011年3月11日、東日本大震災津波発生
- 2011年4月9日、県内初となる応急仮設住宅への入居開始
- 2011年6月、「東日本大震災復興基本法」成立
- 2011年8月31日、県内すべての避難所が閉鎖
- 2012年1月6日付けで総務省が「復興支援員」の推進について通知
- 2012年3月11日、東日本大震災津波から1年を迎え、各地で追悼式挙行

いわて復興応援隊スタートに向けて

- 2012年7月、県がいわて復興応援隊の募集を開始。全国紙にいわて復興応援隊募集記事が掲載され、県への問い合わせが急増。
- 県内外から約100人の応募があり、当初の採用予定枠を10名から15名に変更。
- 8月、書類審査を経て、都内及び盛岡において採用面接を実施。
- 9月、応援隊受入予定自治体に対し事前説明会を実施。

いわて復興応援隊 14名を任命

10月1日、岩手県庁でいわて復興応援隊として県内外から採用された14名に辞令が交付された。総務省の復興支援員制度を活用し、県が初めて採用する応援隊着任に、多くの報道陣から取材を受けた。

翌年1月1日付けで採用となる1名（三陸鉄道株式会社配置）を含め、初年度の応援隊は15名となる。



2012年度任用の応援隊（配置先）※敬称略、着任当時の氏名

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 寺田 英人（軽米町） | 小石川 茂（宮古市・三陸鉄道株式会社） |
| 渡邊 博（九戸村・(株)九戸村ふるさと振興公社） | 鈴木 麻里子（陸前高田市・陸前高田まちづくり協働センター） |
| 宮本 慶子（洋野町） | 菅原 久美子（陸前高田市・(一社)SAVE TAKATA） |
| 勝田 麻津子（洋野町） | 齋藤 健祐（陸前高田市・(一社)SAVE TAKATA） |
| 山下 美陽（野田村） | 新田 昌輝（陸前高田市・(一社)SAVE TAKATA） |
| 町田 恵太郎（野田村） | 平山 花織（陸前高田市・(一社)SAVE TAKATA） |
| 藤島 亜紀子（葛巻町・森のこだま館） | 佐々木 敦代（住田町・住田町観光協会） |
| 橋本 充司（岩泉町） | |

注）年度内の配置替えあり

2012 年度の活動事例

いわて復興応援隊は、東日本大震災発災の翌年の平成 24 年 10 月からスタート。県が復興支援員制度導入を決め、関係市町村への周知や受入体制の整備など、公募から採用に至るまでの期間が短い中で全国から 98 人(県内 35 人、県外 63 人)の応募があり、翌年 1 月の追加採用を含め、15 名の隊員が着任した。

着任からまもなく、隊員が担当となり自治体公式ブログや SNS、動画作成などにより沿岸地域の情報発信がはじまり、県内外で行われる被災地復興イベントでは、配置地域の出展を支援し、沿岸の復興状況や三陸の魅力の PR を積極的に進めた。また、地域づくり等の研修にも積極的に参加し、県内外の復興支援員や地域おこし協力隊等との交流を深めた。

10 月

応援隊公式 SNS がスタート

応援隊や地域の情報を伝える目的で、隊員が定期的に投稿する形で応援隊 Facebook、Twitter の運営がスタート。配置先(地域)の様子や県外向けの PR 活動などを動画も取り入れながら発信した。

応援隊が自治体地域情報ブログや SNS の運営支援

洋野町の「ひろのだよ」や野田村の「のだ村に暮らす」など、配置先で地域情報や地域の魅力を伝えるための情報発信を応援隊が担当するケースも多かった。



11 月・12 月

県内外での地域を PR する活動もスタート

- 盛岡・八幡平広域観光PRイベント(東京/新橋)で岩泉町の出展支援
- ふるさと交流まつり(東京/上野)で洋野町の出展支援
- JOIN 地方交流会 in 岩手に参加(野田村)
- 三陸ジオパーク・モニターツアー「モシ竜・ロマンクルーズ被災地ガイド」に参加(岩泉町)
- 野田村で行われた三陸鉄道の枕木プレート設置式の様子を取材。

※三陸鉄道復旧に向けた支援プロジェクトのひとつで、支援者の名前が刻まれたプレートを三陸鉄道の線路の枕木に設置する。

- 魚をおろすのは初体験の応援隊が、地元の中学生と一緒に「鮭とば」作りを体験(洋野町宿戸漁協)

北三陸の天体観測体験
(洋野町・ひろのまきば天文台)



平成 24 年度第 1 回いわて復興応援隊研修会を盛岡市で開催



11 月の 2 日間、いわて復興応援隊初めての研修会を盛岡市のつなぎ温泉で開催し、応援隊 14 名全員が顔をそろえ、それぞれの活動内容や地域の状況について発表を行った。

講師として、総務省自治行政局地域自立応援課人材力活性化・連携交流室の藤澤三宝子氏を迎え「被災復興の地域づくり」について中越地震復興支援のプロセス、復興支援員制度と制度設計の元になった地域おこし協力隊の事例から成功のポイント等について講義を受けた。

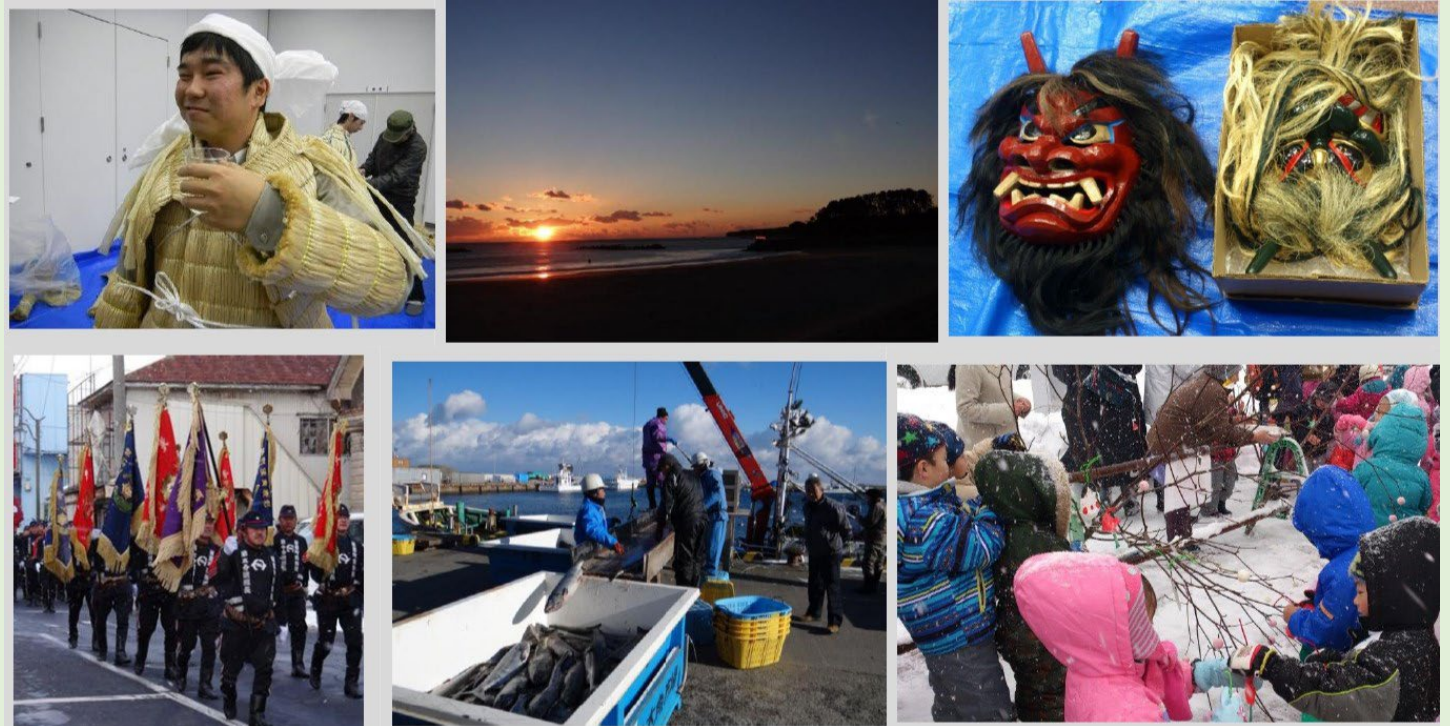
【開催日】2012 年 11 月 15 日、16 日

【会場】つなぎ温泉・清温荘(盛岡市繫)

1 月～3 月

着任後初めて迎える三陸沿岸の正月を紹介

応援隊が各地の正月様子を SNS や地域ブログで紹介。多くの隊員が活動地域で着任後初めての正月を迎え、地域の魅力を伝えた。



行政や民間の様々な広報媒体で応援隊の活動を紹介

- JOIN(移住・交流推進機構)ポータルサイト「隊員インタビュー・特集 Vol.37」で住田町配置の応援隊と共にいわて復興応援隊についても紹介された。
- 県政番組「いわて希望の一步」で応援隊の活動といわて復興応援隊について紹介

1 月放送:「我ら!いわて復興応援隊～被災地の今を発信(野田村)～」
2 月放送:「我ら!いわて復興応援隊～思いを復興の力に(陸前高田市)～」

- 岩手日報の特集「頑張る復興応援団(2013.3.6)」に洋野町配置応援隊が掲載され、地域の魅力探しを元気に発信する活動が紹介された。

復興支援に関わる学生達の受入れ(野田村)

「野田村復興応援フィールドツアー」で大阪と八戸の大学生を野田村で復興支援に関わる若者たちと連携し受入れ、地域との交流を図った。



味噌づくりに挑戦

軽米町の醤油とみその老舗製造会社が開催した「味噌づくり教室」に軽米町・洋野町で活動する応援隊が参加し、他の参加者共に麴をほぐす作業や大豆を蒸す行程を体験した。

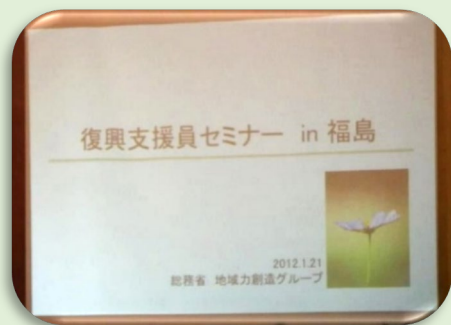
厳寒の凍み大根づくりを体験

岩泉町安家地区で、地元で生産される赤い色で辛みのある大根で作る保存食の凍み大根づくりを体験。



復興支援員セミナーin 福島で応援隊が事例発表

1月21日、福島県庁で開催された総務省主催「復興支援員セミナーin 福島」で、福島県、宮城県の復興支援員とともに、いわて復興応援隊(住田町配置)が事例発表を行った。



基調講演: 稲垣文彦氏(中越防災安全推進機構復興デザインセンター長)
藤沢烈氏(復興庁政策調査官)

事例発表: 宮城県、福島県浪江町、宮城県復興応援隊、岩手県復興応援隊、浪江町復興支援員

被災地のITスキル向上と就労支援

陸前高田市の就労創出支援の一つとして、パソコン教室開催を支援。このほか、被災事業者や新規事業者のwebサイト開設支援など被災地のIT普及を進めることで、被災者の生活支援をはじめ、地域活性化、観光や産業の復興支援につなげていくこととなる。



配置先「陸前高田まちづくり協働センター」の取組を紹介

陸前高田市の仮設商店街「高田大隅つどいの丘商店街」に拠点を置く、応援隊配置先の一つ「陸前高田まちづくり協働センター」の取組みを応援隊SNSで紹介。



陸前高田まちづくり協働センターは、地域の復興に寄り添いながら、町内会・自治会等のコミュニティ支援やNPOの立ち上げ・運営支援など地域づくりを支える取組みを行っている。

高田大隅つどいの丘商店街には、もう一つの応援隊配置先である(一社)SAVE TAKATAも入居するシェアオフィスもあり、2013年3月時点で、応援隊が5人の活動拠点となっており、復興支援関係者の重要な交流の場でもあった。

九戸村特産「あま茶」の販促支援

岩手県北部に位置する九戸村は、甘茶の国内有数の生産地。東日本大震災津波による風評被害を乗り越え、販路拡大、新商品開発を応援隊が着任当初から全力で支援した。県内外の物産フェアはもとより、復興関連のフォーラムや復興支援員・地域おこし協力隊の研修や報告会等の会場でも甘茶の試飲コーナーを設けるなどPR活動を継続して行い、海外でも高い評価を受けるなど成果を上げていく。



北海道地域おこし協力隊研修会に参加

2013年2月15日に札幌市で開催された「北海道地域おこし協力隊研修・交流会」に応援隊も参加。「地域で活動を進めるには」をテーマにしたワークショップでは、道県の枠を超えた熱いディスカッションが行われた。



洋野町東日本大震災復興講演会開催支援(3月10日)

洋野町民文化会館で開催された東日本大震災復興講演会で、応援隊が人生初の司会を務め、来場者約700人と共に陸前高田市の八木澤商店会長の河野和義氏の「ふるさとには負けない！」と題した復興に向けた講演を聴講。

東日本大震災津波から2年目を迎える地域の様子

野田村の追悼式会場準備や災害公営住宅新築内覧会の様子を伝えた。



全国ほんもの体験フォーラム in 徳島(3月16日～18日)

全国の体験型観光の関係者が集い、情報交換・体験交流による地域振興の推進を目的に開催される第9回目の全国ほんもの体験フォーラムが徳島県徳島市で開催され、洋野町・野田村の応援隊が参加。全国の取り組み事例や課題を学び、関係者との交流を深めた。同フォーラムは、2011年度に開催される予定であったが、東日本大震災発災を受け開催中止となっていたもので、東北の被災地からの参加も含め全国から体験プログラムを提供する関係者が集った。



平成 24 年度第2回いわて復興応援隊研修会を開催(宮古市)

同年度 2 回目となる応援隊研修は、隊員の提案により、3 月 25 日、26 日の両日、宮古市田老のグリーンピア三陸みやこを会場に沿岸での現地開催となった。

1 日目は、いわて連携復興センター事務局長の葛巻徹氏を迎え「県内の復興支援の現状と課題」について講義を受け、続いて隊員企画ワークショップを、講師、事務局も参加して行い、約半年の活動を通して出てきた「応援隊の共通課題とは何か？」をテーマにその原因を洗い出し、今後の方向性を探った。



研修2日目は、午前中、県内外で開催された復興や地域振興関連のフォーラムやイベント等に参加した隊員からの報告を聞き、今後の活動に向けた情報交換を行った。午後は、宮古観光文化交流協会の体験プログラム「田老・学ぶ防災」に参加し、ガイの元田さんから田老地区の被災当時の様子について、現場を巡りながら説明を聞いた。



グリーンピア三陸みやこ(宮古市田老向新田 148)

東日本大震災津波発災直後は、避難所として使用され、その後は広大な敷地内に応急仮設住宅や仮設店舗が立てられ、地域の復興と共に歩んできた総合リゾート施設。

いわて復興応援隊次年度の募集に向けての取組

受入れ体制の強化と採用方法の見直し

2012年10月からスタートしたいわて復興応援隊は、導入を急いだことも要因となり、隊員と受入機関との活動内容のミスマッチや受入体制の課題等が明らかとなり、隊員の配置替えなどの対応に迫られ、翌年度からの採用方法を見直すこととなった。

平成25年度いわて復興応援隊員募集

岩手県では約15名の「復興応援隊員」が被災地の3拠点を中心に活動しています。さらには4月から始まる平成25年度隊員の募集が始まります。3拠点の復興と地域の活性化に向けて志のある方々の応募を募集しています。被災地を学ぶ復興応援隊のセミナーも開催いたしますので、ぜひご参加ください。

地域を元気にし、復興を後押しする人材を求めます！

いわて復興応援隊 セミナー&募集説明会

募集説明会の入場は自由ですが、事前のお申し込みをお勧めします。

平成25年 1月19日(土)
 マリオス183,184会議室
 〒019-621-5000

平成25年 1月25日(金)
 ふるさと国際支援センター
 〒03-6273-4401

平成25年 1月26日(土)
 岩手県東部事務所分室
 〒03-5212-9162

いわて定住・交流促進連絡協議会 (岩手県庁地域復興室内)
 〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1 ☎019-629-5194 Mail:AB0007@pref.iwate.jp



いわて復興応援隊 2期生採用に向けての動き

- 11月: 2013年度応援隊配置について、自治体等の意向調査を実施
- 12月: 応援隊受入機関(予定を含む)にヒアリングを実施
- 翌年1月: 応援隊募集説明会を都内2か所、盛岡市内1か所で開催
- 2月: 応援隊採用面接会(都内・盛岡市)実施※各機関受入担当者同席
- 3月: 応援隊採用内定者の事前現地視察を実施。

【3/16】応援隊が活動と制度について全体共有(盛岡市)

【3/17】内定者と受入担当者が一緒に配置先へ移動し、活動予定地域を視察し、現地関係者と交流(沿岸の各配置先)



3/16 盛岡地域交流センター「マリオス」に応援隊採用内定者と受入機関担当者が集合

2013年度は、4月から応援隊活動と当協議会事務局運営を支援する専門支援員が配置され、応援隊のフォロー体制が強化される。また、応援隊2期生着任前の4月10日には、応援隊受入機関担当者研修会を盛岡で開催し、復興支援員制度や応援隊受入体制の重要性を共有し、4月15日の応援隊2期生の着任を迎える。

2013（平成25）年度



県内の主な出来事

- NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放送開始(4/1)
- 三陸鉄道南リアス線(盛～吉浜間)運転再開(4/3)
- 1955年に陸中海岸国立公園として指定された区域に、青森県八戸市の蕪島(かぶしま)・種差(たねさし)海岸と階上(はしかみ)町の階上岳・階上海岸の区域を合わせ、「三陸復興国立公園」に名称が改められた。(5/24)
- 三陸ジオパーク(青森県八戸市～宮城県気仙沼市)が日本ジオパークに認定(9/24)
- 県内の三陸沿岸道路で初めて「普代道路」が開通(10/13)
- 岩手県の災害廃棄物処理が終了(2014/3/31)

いわて復興応援隊 17名を任命

2013年4月15日付けで16名、6月1日付けで1名の隊員が着任



平成25年度着任の隊員（配置先） ※敬称省略

- 池 一恵（久慈市・久慈商工会議所）
 田村 絵里（田野畑村・一般社団法人田野畑村産業開発公社）
 渡邊 悦子（田野畑村・NPO 法人体験村・たのはたネットワーク）
 山下 慶子（山田町・社会福祉法人山田町社会福祉協議会）
 木村 公介（山田町・社会福祉法人山田町社会福祉協議会）
 若田 謙一（山田町）
 松岡 雄也（大槌町・復興まちづくり大槌株式会社）
 中野 貴之（大船渡市・一般社団法人大船渡市観光物産協会）
 佐藤 秀則（大船渡市・NPO 法人夢ネット大船渡）
 河野 由佳（大船渡市・NPO 法人夢ネット大船渡）
 酒井 菜穂子（陸前高田市・陸前高田まちづくり協働センター）
 種坂 奈保子（陸前高田市・陸前高田地域振興株式会社）
 佃 実佳（陸前高田市・NPO 法人陸前高田市仮設住宅連絡会）
 榎本 英生（陸前高田市・NPO 法人陸前高田市仮設住宅連絡会）
 池田 陽一（陸前高田市・NPO 法人陸前たがだ八起プロジェクト）
 山口 なつみ（陸前高田市・NPO 法人陸前たがだ八起プロジェクト）
 美濃 はるか（住田町・住田町観光協会）



2013年4月15日時点の応援隊配置自治体

2013 年度の活動事例

応援隊の配置地域が沿岸を中心に 14 市町村となり、隊員数は 30 人を超えたことから、隊員間の交流・連携がより重要となり、自主的なミーティングやイベント等の企画・実施が積極的に行われた。

新年度新たに隊員を迎えるにあたり、4 月から隊員 1 期生からメンバー全員の自己紹介を公式 SNS でスタートさせ、6 月に隊員 1 名を迎えるまでルー形式で隊員それぞれが投稿を行い、応援隊の存在を県内外に対し PR した。



2013年当時の応援隊公式 Facebook のトップページ

当時の SNS の日常の運営は、隊員間で行っており、活用方法を議論しながら進められた。

投稿については、県(事務局)のチェックが入ることもあったが、その都度、課題を互いに話し合いながら、隊員の活動をはじめ、復興状況や地域の取組み、三陸の魅力などリアルタイムで情報発信を行った。



2 期生着任後は、県内外の被災地復興支援の関係団体との連携もより強化され、応援隊の活動がメディア等で紹介される機会も増え、隊員も積極的に地域に溶け込み、支援活動も幅も広がりを見せていく。

当協議会事務局には、隊員の活動支援を万全にするため、同年 4 月から専門支援員が着任し、隊員の労務管理をはじめ、活動及び生活相談、受入れ先や関係団体との連絡調整、事務局運営などを行う体制を県庁舎内に設置した。

5月

県立高田高等学校進路講演会で応援隊が講演

陸前高田市の県立高田高等学校で「復興応援隊から高生(たかこうせい)へのメッセージ」と題して、応援隊2名が講演。同講演会の様子は、地元紙(東海新報)の取材を受けたほか、仲間の応援隊が地域広報紙「復興ニュース」の記者として「キャリア教育」をテーマに取材し紹介した。

※当時、高田高校は、被災により県立大船渡東高校萱中校舎(旧県立大船渡農業高校)を使用。



復興女子会議に隊員参加

5月25日、遠野市内のホテルを会場に岩手若手会議主催の第2回若手会議 in 岩手「復興女子会議」が開催され、県内の復興や地域づくりに関わる女性7名によるパネルディスカッション(コーディネーター:岡本翔馬氏)により復興を語った。パネリストとして応援隊も登壇し、グリーン・ツーリズムや教育旅行など地域の交流事業に取り組む隊員としての復興支援を語った。

応援隊をはじめ、被災地で支援活動する関係者が多数参加し、交流を深めた。



応援隊自主企画ミーティング in 陸前高田

気仙地域で活動する応援隊が中心となり、陸前高田まちづくり協働センターを会場に、自主企画ミーティングを実施。30人となった応援隊で“今後どう連携できるか、地域の課題や地域が求める支援は何か”について話し合った。

このミーティングは、5月29日と30日の2回に分け、メンバーを入れ替えて行われ、両日の内容はその後全員に共有され、様々な地域との連携活動が展開していく。



6月

- 6月5日、「平成25年度第1回地域活性化ミーティング」が釜石市で開催され、当協議会事務局から専門支援員が登壇し、いわて復興応援隊の活動について報告を行った。(主催:認定NPO法人ジャパン・プラネットフォーム、NPO法人いわて連携復興センター)
- 6月7日、専門支援員が岩手大学において、同大学地域コミュニティ再建支援班といわて復興応援隊の活動状況等の情報共有を行った。



7月

地域企業との連携で山田町と葛巻町をつなぐツアー実施

県北地域で活動する応援隊(野田村、洋野町、葛巻町、岩泉町)が4月から地域ミーティングを開始し、葛巻町の「森のこだま館(株)岩手くずまきワイン」と協働で地域交流イベントを企画。山田町配置の応援隊とも連携し、7月29日、山田町で被災された方々を対象に「くずまきワイナリー見学ツアー」を実施した。海の街「山田町」から高原の街「葛巻町」への交流企画は、運営側も参加者からも「とても楽しい時間を過ごせた」と好評を得た。



8月

平成25年度第1回いわて応援隊研修会を開催(盛岡地区合同庁舎)

応援隊2期生が着任し31名体制となってから初めて応援隊研修会を8月下旬の2日間、盛岡市内で実施。

1日目は、復興支援員や地域おこし協力隊などの制度設計や運営支援に関わってきた(公社)中越防災安全推進機構復興デザインセンター(当時)の稲垣文彦氏が「復興支援員の可能性」について講義を行い、隊員が地域の課題や隊員活動について発表した。2日目は、活動についての意見交換と稲垣氏による全体講評が行われた。また、総務省自治行政局自立応援課の馬場課長が会場を訪れ、応援隊と懇談し、被災地での活動に激励を送った。



9月・10月

現地復興推進会議に参加(大船渡市)

気仙地域で初めて、県の現地復興推進会議が開催され、知事や県の幹部職員が被災地入り。被災地に移住し復興支援に取り組む若者たちと共に住田町配置の応援隊も出席し、復興に関わる意見交換を行った。



三陸ジオパークが日本ジオパークに認定

9月24日、三陸ジオパーク(青森県八戸市から岩手県の沿岸を縦断して宮城県気仙沼市まで、南北約220 km、東西約80 km)が日本ジオパークに認定され、翌年(平成26年)5月から三陸ジオパーク推進協議会事務局への応援隊配置がスタートし、その後、多くの応援隊が三陸ジオパーク推進協議会事務局の運営、地域との連携、周知活動に大きく関わっていく。

いわて復興だより「未来のさんりくびと」で応援隊を紹介

岩手県復興局が定期発行している「いわて復興だより」の三陸の復興に取り組む若者を紹介するコーナー「未来のさんりくびと」に6人の応援隊が紹介記事が掲載された。

いわて復興だよりの応援隊掲載号

第47号(2013年9月1日発行)
若田謙一隊員/山田町配置

第49号(2013年10月1日発行)
町田恵太郎隊員/野田村配置

第52号(2013年11月15日発行)
池一恵隊員/久慈商工会議所配置

第67号(2014年7月15日発行)
松岡雄也隊員/
復興まちづくり大槌株式会社配置

第69号(2014年8月15日発行)
齊藤健祐隊員/
(一社)SAVE TAKATA 配置

第71号(2014年9月15日発行)
木村公介隊員/山田町社会福祉協議会・山田社協復興支援愛センター配置

地方自治体向け情報誌に紹介記事掲載

月刊ガバナンス10月号の復興支援員をテーマにした連載記事「被災地へのエール」で岩手・宮城・福島復興支援員に稲垣文彦氏が取材した記事が掲載された。

いわて復興応援隊は、山田町、野田村、陸前高田市、住田町に配置された隊員と当協議会事務局が取材を受けた。

※ 稲垣文彦氏: 中越越防災安全推進機構復興デザインセンター長(当時)

 未来の さんりく びと	 未来の さんりく びと	 未来の さんりく びと
山田町役場水産商工課 若田 謙一 (わかた けんいち) さん	野田村役場産業振興課 町田 恵太郎 (まちだ けいたろう) さん	久慈商工会議所 池一恵 (いけひとみ) さん
若田さんからのひと言: 町を越え、沿岸を越え、岩手を越え、つながりの中で新たなパワーを!	町田さんからのひと言: 地域として前進!!	池さんからのひと言: 岩手・久慈をまた来たい!と思える場所に。

岩手県復興局発行「いわて復興だより」より		
 未来の さんりく びと	 未来の さんりく びと	 未来の さんりく びと
復興まちづくり大槌株式会社 松岡 雄也 (まつおか ゆうや) さん	「一般社団法人 SAVE TAKATA」 齊藤 健祐 (さいとう けんすけ) さん	社会福祉法人 山田町社会福祉協議会 山田社協復興支援愛センター 木村 公介 (きむら こうすけ) さん
松岡さんからのひと言: 大槌町の復興が少しずつ進む様子をぜひ見に来て下さい。	齊藤さんからのひと言: 地域内の高校生と、地域外の若者を対象にして、これからも、この気仙地域で活動していきたいです。	木村さんからのひと言: 笑顔を増やす!! ワクワク!! ドキドキする山田へ!!

※ 「いわて復興だより」の2011年7月1日の創刊号から現在発行分まで、岩手県のwebサイトから閲覧可能。



街コン「いわてさんりく恋列車」開催

応援隊の提案からスタートし、隊員の受入先をはじめ、岩手県沿岸の NPO や企業、地域支援団体等の合同企画として開催となった地域活性イベント。三陸鉄道の貸し切り列車を利用し、盛駅から吉浜駅を往復して県内外の 20 以上の男女の出会いや交流の場を提供するほか、三陸鉄道沿線の魅力を発信し、地域経済やコミュニティ再生に狙いを置き、参加者とともに地域や運営側も一緒に楽しむイベントを目指した。

初回開催から高評価を受け、SNS やマスコミでも話題となり、開催数を重ねる中、ドラマ制作のモデルとなり、2016 年 2 月に NHK 地域ドラマ「恋の三陸列車コンで行こう！」として放映され、地元大船渡での NHK のドラマ撮影には、地域住民や恋列車関係者とともに応援隊もエキストラとして参加するなど、被災地に明るさと元気をもたらした応援隊自主活動の成果の一つである。



いわてさんりく恋列車
愛の機軸

恋し浜
KOISHIHAMA

平成25年10月13日(日)開催!
列車で街コン!?

【開催日時】10月13日(日)13:30~17:50
【会場】三陸鉄道貸切列車および恋し浜駅会場
※盛岡駅~吉浜駅で所定し、恋し浜駅~盛岡駅
【当日受付時間】12:30~13:20 ※要予約申込み
【当日受付場所】三陸鉄道 盛岡ふれあい待合室
(盛岡駅大船渡駅直結徒歩1分)
【参加対象】20歳以上40歳未満の未婚の方
(要予約) (男女比2:8、女性20%)

◇お申し込み方法◇
メールにてお問い合わせ
koiressha2013@gmail.com
宛てに「お名前」「年齢」「性別」「ご住所」「電話番号(携帯)」「ご記入の上、送信してください!」
こちらのQRコードからも応募OK!
※開催費をメールにてお振込みください

11月



洋野エモーション開始(洋野町)

JR 八戸線で運行するレストラン列車「東北エモーション」の乗客に、沿線から大漁旗を振って歓迎する活動「洋野エモーション」を応援隊が地域住民と共に開始。

東日本大震災津波からの JR 八戸線早期復旧を願う地域住民の願いが後押しとなり、2012 年 3 月八戸線全線運転再開、多くの町民が旗を振って祝福。2013 年 10 月に東北エモーションの運行開始となり、応援隊が地域の取組として「洋野エモーション」をスタートさせた。

2023 年 11 年、洋野エモーションは 10 周年を迎え、洋野町広報紙に JR 八戸線の歩みとともに特集が掲載された。

平成 25 年度第 2 回いわて復興応援隊研修会(11 月 26 日・盛岡市(エスポワール))

2013 年 11 月 26 日開催の応援隊研修会では、前半、冬季の安全運転セミナーを実施(講師:インターリスク総研・宮川幸男氏)。応援隊の多くが首都圏や関東以南からの移住者であったこともあり、冬道運転の安全を図る目的で実施された。後半は、「業務も、必要な情報もばらばらな、いわて復興応援隊の中で、それぞれが抱える課題を共有し、共通の対策を分析し、具体的なアクションへとつなげていく」を目的に、応援隊企画のワークショップを行い、いくつかのテーマで、応援隊や事務局との間で議論し、今後の活動への展開を共に考えた。



12月

山田町第1回100円商店街開催

応援隊が商店街と連携し、地域を盛り上げ地域と一緒に楽しめるイベントを企画・開催。



愛媛県の中学・高校で講演

隊員が故郷・愛媛で中・高校生に三陸の復興について講演。

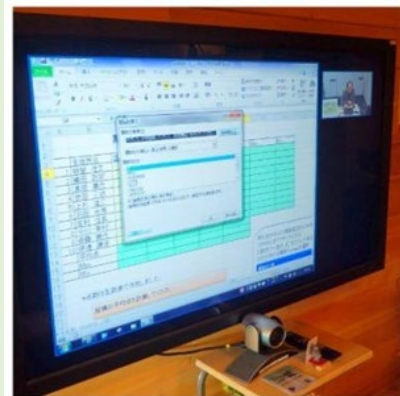
陸前高田復興マップの発行

一般社団法人 SAVE TAKATA が、震災後再開した商店や施設等を掲載した陸前高田市の街のマップを2012年4月から継続して発行してきたものを応援隊が担当を引き継ぎ、更新版を発行。



住田町でクリスマスイベント開催(12/22)

地域の子ども達のために廃校となった小学校で「アリスの不思議なクリスマス」を隊員が中心になって企画・開催。



女性就業支援・パソコン講座サポート

陸前高田市内のコワーキングスペースで行われたパソコン講座で講師アシスタントとして参加。前職の経験とスキルを活かして、女性就業を支援。



応急仮設住宅でクリスマスイベントの石けんづくり

大船渡市の山馬越仮設住宅集会所で、クリスマスイベントの石けん作りを実施。応援隊が仮設住宅の支援で行っている『はっぴいクラブ』の一環で実施した。

1月～3月

岩手県復興実施計画に参画

岩手県第2期復興実施計画に対する若者との意見交換会が県庁で開催され、住田町配置の隊員を含む10人の沿岸地域の若者が現場からの提言を行った。

「復興実施計画（第2期）」に若者、女性の視点を！
～若者、女性との意見交換会が開催されました～

岩手県は、東日本大震災津波からの本格復興を目指し、策定を進める「復興実施計画（第2期）」（平成26年度から平成28年度まで）について、若者や女性の意見を

参加した佐賀 敏子さん（山田町立山田南は、
は、
考：

「いわて復興だより」

56号

58号より

恋するフォーチュンクッキー

「三鉄南リアスバージョン」が再生回数37万回超え！

YouTubeの「AKB48公式チャンネル」で配信されていた岩手県・三陸鉄道南リアスバージョンの再生回数が、2014年2月時点で37万回を超え話題となる。この動画には、応援隊も多数参加し、三鉄全線開通の機運醸成に協力した。

「いわて復興だより」
第58号
(平成26年2月15日号)
岩手県

「恋するフォーチュンクッキー 岩手県・三陸鉄道南リアス線バージョン」の再生回数が37万回突破！
三陸鉄道、4月の全線運転再開に沿線市民らの機運高まる

災害ボランティアリーダー養成講座で講演

東日本大震災被災地で、ボランティア活動が抱える課題を考える講演会が群馬県庁で開催され、群馬県太田市出身の応援隊が「被災地から見た災害ボランティアと今後の復興支援」と題して講演。震災から現在のボランティアの活動の推移、現在の現地ニーズについて情報提供を行った。(毎日新聞の地方版にも掲載)

平成 25 年度復興支援員研修報告会参加(2月5日、6日)

東北自治総合研修センターにおいて、総務省主催の岩手・宮城・福島合同の復興支援員研修会が開催され、3県から 140 人を超える関係者が一堂に会し、ワークショップや懇親会で交流を図り、岩手県からは、いわて復興応援隊(陸前高田市配置)が事例発表を行った。3県とも次年度以降の開催を望んだが、残念ながら大規模な合同研修はこれが最初で最後となった。



1日目(公開)

【講演】稲垣文彦氏/「復興支援員の可能性と課題」

【報告】各県担当者、復興支援員から、事業運営・活動報告

《パネルディスカッション》

多様な担い手による地域復興の可能性/コーディネーター: 藤沢烈氏

2日目(非公開)

《分科会》

・マネジメント分科会、復興支援員分科会

《全体会》

分科会情報共有、講評

山田町の復興支援員制度導入を支援

山田町で復興支援員(3名)の募集を開始し、同町に配置している応援隊が全面サポート。(3/14 毎日新聞掲載)
同応援隊は、2014年5月末で退任し、同町の復興支援員をマネジメントする立場として活躍することとなる。

震災から3年を迎えた陸前高田市を伝える

3月11日を迎え、応援隊が今の陸前高田市を伝えた。「大切ないのちを一人でも多く守れるよう、後悔しないよう、備えをしつかりしてください。その為にも、震災があったことを忘れないでください。ここで見た景色、聞いた話を、忘れないでください。そして、ぜひまた来て、元気をわけていってください！ 今日で震災から3年です。追悼の想いととも、ぜひ、防災について考える日に。」



2014（平成26）年度

県内の主な出来事

- 三陸鉄道南リアス線(吉浜～釜石)運行再開で全線運行再開(4/5)
- 三陸鉄道北リアス線(小本～田野畑)運行再開で全線運行再開(4/6)
- 7月、普代浜(普代村)、荒神(山田町)、吉里吉里(大槌町)の海水浴場が4年ぶりに再開
- 12月、机浜番屋群(田野畑村)完成、震災からの復興・再建をとげる
- 鶉鳥神楽(普代村)が国の重要無形民俗文化財指定に内定(1/16)
- 県立高田高等学校(陸前高田市)の新校舎が完成(3/19)



いわて復興応援隊に新たに2名を任命

5月1日付けで、宮古市と陸前高田市に応援隊が着任

杉本伸一（三陸ジオパーク推進協議会事務局配置）

柿元恵美（NPO 法人陸前高田市支援連絡協議会 Aid TAKATA 配置）

三陸ジオパーク推進協議会事務局へは、2014年度以降2022年度まで10名の応援隊を配置し、他の応援隊も加え、同事務局の運営から地域との連携と三陸ジオパークの推進を全面的に支援することとなる。

また、Aid TAKATA へは、ラジオパーソナリティの経験豊富な人材を配置し、陸前高田市災害FMを通してコミュニティ支援を目指した。

2014年度の応援隊活動

地域おこし協力隊等の交流会や研修会に地域を超えて参加する機会が増え、県政懇談会(7月、12月)に出席し知事や地域の若者と意見交換をするなど復興支援員の存在が地域に認識され、応援隊の活動も広がりをを見せていく。

4月

三陸鉄道南リアス線、北リアス線全線運行開始

4月6日、北リアス線再開で沸く地域の様子を田野畑村と洋野町配置の隊員が取材し、それぞれ地域ブログや応援隊公式 SNS で伝えた。

隊員が地域の消防団に入団

4月1日、洋野町消防団本部ラッパ隊に、応援隊が入団し同日辞令が交付された。(4/4のデーリー東北に掲載)



5月

列車イベントを開催

昨年に続き、気仙地域で活動する応援隊が地域と連携し企画・運営する三陸鉄道イベント「☆ホタテに願いを☆いわてさんりく恋列車」を5月の連休に開催。

県立高校のIT支援

陸前高田市配置の隊員が、5月27日、岩手県立大船渡東高校情報処理科の授業の一環でWeb制作教室の講師をつとめ、地域のIT推進を支援した。



6月

いわて復興応援隊活動報告会開催(6月5日・盛岡市)

盛岡地域交流センター『マリオス』でいわて復興応援隊活動報告会を開催。12名の応援隊が、日頃の活動を通して感じたことや課題、地域に今必要な支援、これからの地域の在り方などを発表。

この他、釜石市の復興支援員(釜援隊)や二戸市、西和賀町の地域おこし協力隊の活動紹介も行われ、複数のマスコミ取材もあり、会場は大入りとなった。同報告会は、翌年から地域おこし協力隊との合同開催となり、その後は「地域づくり人材活動事例発表会」と形を変えて開催されていく。



7月

県政懇談会「がんばろう！岩手」意見交換会で応援隊が提言(7月8日・宮古市)

宮古地区合同庁舎で開催された県政懇談会に、田野畑村のNPOで活動する隊員が出席し、宮古地区で復興に取り組む企業や団体の代表者と共に知事や県関係者と意見交換を行った。隊員は、田野畑村の体験民泊等の受入れ状況や10月に再建となる机浜番屋群や地域の魅力を伝える活動への思いについて発言したほか「復興支援員として活動する中で、隊員同士の連携の機会が必要なことや、公務ということで様々な点で規制されると活動がし難い現状について改善が必要」と提言した。



その後、この提言が関係者に共有され、応援隊の自主的活動について改めて検討されることとなった。



参考:岩手県 HP<<県政懇談会「がんばろう！岩手」意見交換会(平成26年7月8日宮古地区)>>

地域住民を対象にした復興の現場見学会に参加(7月25日・陸前高田市)

岩手県主催の「復興の現場見学会」が陸前高田市で開催され、市民活動や自治会の支援に関わる応援隊も参加し、SNSで復興の様子を伝えた。



8月・9月

岩手大学被災地学修ワークショップで事例発表(8月5日・田野畑村)

田野畑村で開催された「岩手大学被災地学修ワークショップ(岩手大学地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト)」で、同村配置の応援隊が移住の決断と応援隊活動を通して感じる地域づくりについて発表。



陸前高田市高田町「うごく七夕祭り」に参加(8月7日)

前年は観覧参加だった応援隊(陸前高田市配置)が、山車制作からお囃子まで参加し当日の様子をレポート。



陸前高田復幸マップ冊子版から Web版へ

震災後、復興が進む陸前高田市内 8 地域を案内する「復幸マップ」の8月号が発行となった。同紙は、一般社団法人 SAVE TAKATA が発行する情報紙で、同法人に配置の応援隊が中心になり編集・発行を行った。

この8月号を最後に冊子版から Web 版へ変わり、後の「高田旅ナビアプリ」の誕生につながっていく。

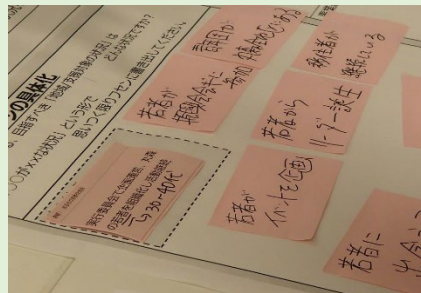


連絡会通信発行一周年

陸前高田市仮設住宅連絡会が発行する「連絡会通信」13号が発行となり、同通信の発行一周年を迎えた。陸前高田市内で進む、災害公営住宅建設予定地の定点観測(写真撮影)や「陸前高田まちづくり情報館」の案内など、市内の復興状況を解りやすく紹介。取材・編集・発行と応援隊が支援しており、復興の経過を記録した資料でもあった。

宮城県主催の復興支援員・地域おこし協力隊活動中間報告会に参加(9月2日)

仙台市(TKP ガーデンシティ仙台勾当台)で開催された宮城県主催「平成 26 年度復興支援員・地域おこし協力隊活動中間報告会」が開催され、参集 170 人の中に応援隊と専門支援員6名も参加。地域の課題、活動の悩みに共通することが多く、つながりが出来たことで、その後幅広い交流が生まれるきっかけともなった。



三陸チャンネル(YouTube)に応援隊が登場

岩手県北広域振興局の公式 YouTube「三陸チャンネル」に野田村、九戸村で活動する応援隊が登場し「北三陸を復興応援隊が行く。」をテーマに地域の特産等を紹介。



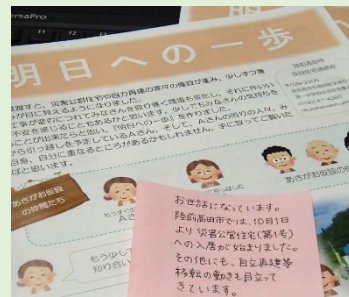
三陸チャンネル⇒



10月

住民へのメッセージ「明日への一步」を発行

10月1日、陸前高田市では、災害公営住宅への入居が開始となり、自主再建による住民の移転の動きも進み始めてきた。応急仮設住宅の自治会サポートを行っていた陸前高田市仮設住宅連絡会の支援員たちと応援隊が、復興とともに変わりゆく時間の中で様々な不安を感じている住民に向けたメッセージをまとめた「明日への一步」を発行。



JICA特別研修で応援隊が活動発表(10月20日)

観光振興政策策定・実施に携わる海外からの研修員(JICA 研修)8名が来県し、応援隊3名が岩手県庁で県の観光政策と被災地の観光振興等に関わるいわて復興応援隊の活動について発表し、通訳を交えて、和やかに交流した。



11月

第2回いわて復興応援隊活動報告会 (11月25日、平成26年度地域コミュニティ活性化セミナー併催)



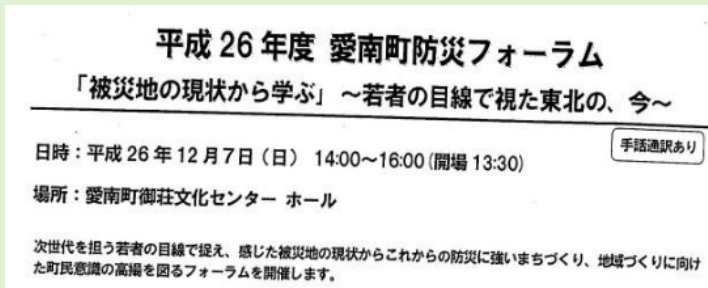
盛岡市(サンセール盛岡)で岩手県主催「地域コミュニティ活性化セミナー」との併催により、平成26年度第2回いわて復興応援隊活動報告会が開催され、復興支援員や地域おこし協力隊、まちづくり団体など100名を超す関係者が参加した。

総務省地域力創造アドバイザー五十嵐経氏による秋田県大館市釈迦内サンフラワープロジェクトの活動紹介や北上市のNP Oから活動事例発表の後、県内の地域おこし協力隊・復興支援員の活動紹介、いわて復興応援隊13名が分野ごとに活動報告を行った。全体の司会進行は、この年5月に着任し、陸前高田市災害FM運営団体で活動する応援隊が務めた。

12月

愛媛県愛南町「防災フォーラム～被災地の現状から学ぶ」に参加(12月7日)

町ぐるみで防災に取り組む愛南町の防災フォーラムに、発表者として招待された岩手県関係者に応援隊が同行。登壇者の元応援隊(愛媛県出身)をはじめ、愛媛県関係者と交流を深めた。



県政懇談会(久慈地区開催)に応援隊が参加(12月12日・久慈市)

県政懇談会「がんばろう！岩手(久慈市)」に応援隊(洋野町、野田村配置)が参加。

机番屋群が復活(田野畑村)

東日本大震災津波により全壊した田野畑村の漁師のなりわいの場「机番屋群」が完成。同所を運営するNPO法人体験村・たのはたネットワーク配置の応援隊も、活動の拠点を北山崎ビジターセンターから同所に移し、サップ船など体験型ツアーや教育旅行の受入を支援。



1月



若者・女性の活躍と支援に関する意見交換会に参加(1月8日)

岩手県公会堂(盛岡市)で開催された「若者・女性の活躍と支援に関する意見交換会」に応援隊(大船渡市配置)が参加。応援隊として岩手に移住した体験から“若者の定住に必要なこと”について「医療体制が整っていること」と意見を述べた。

いわて三陸復興フォーラム報告会登壇(1月16日)

岩手県公会堂で開催された岩手県主催「いわて三陸復興フォーラム」の第4報告会(つながりの力による復興)で、応援隊が配置先(NPO法人陸前たがだ八起プロジェクト)の取組について事例発表を行った。

【全体会】1月15日・アイーナ(盛岡市)

【報告会】1月16日・盛岡市内及び大船渡地区合同庁舎



2月

葛巻町・岩泉町・野田村の特産品パック販促支援

各地域に配置され、活動する応援隊の連携により始まり、自治体単位ではなく広くつながって地域を盛り上げようと企画。地域の企業(岩手くずまきワイン(葛巻町)、岩泉産業開発(岩泉町)、道の駅のだ観光物産館ぱあぶる(野田村))に提案し3町村の特産品をセットにした「塩の道&くずまきワイン頒布会」の実施につなげた。



宮城県復興支援員・地域おこし協力隊活動年度末報告会に参加(2月5日・仙台市)

宮城県内で活動する隊員の活動報告、分科会(事業終了後に向けた地域の取組、定住するための将来ビジョンの共有)と全体会。聴講参加のいわて復興応援隊も、主催側の好意で分科会に「岩手グループ」として飛び入りで参加し、全体会で発表も行うなど、宮城県の隊員や関係者と復興支援、地域支援の課題共有や交流を図ることができた。

【主催】宮城県 【企画・運営】せんだい・みやぎ NPO センター、みやぎ連携復興センター



一関市大東町の「大原水かけ祭り」に参加(2月11日)

陸前高田市のNPOで仮設住宅入居者支援等を行っている応援隊が、江戸時代からつく天下の奇祭ともいわれる、「一関市・大東大原水かけ祭り」に参戦。厳冬の街中を腹にさらしをまいた参加者達と駆け抜け、沿道から容赦なく冷水を浴びせられながら、陸前高田の早期の復興を祈願した。

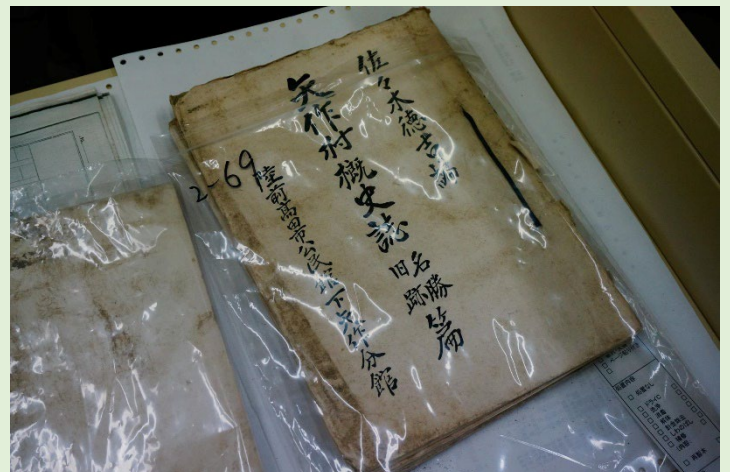
大東大原水かけ祭り

1657年明暦の大火をきっかけに火防祈願・無病息災を願い始まったとされる祭り。2017年岩手県無形民俗文化財に指定。

大津波からよみがえった郷土の宝(東京都立中央図書館)の取材

東日本大震災により被災した陸前高田市立図書館の郷土資料等の蔵書を、東京都立中央図書館が受け入れ、第一次受け入れ分の修理が完了し、同市へ返還前に展示会を企画。この展示を応援隊が帰省の際に取材した。

応援隊の投稿より 被災資料は解体、ドライクリーニング、消毒、洗浄、補修、再製本など多くの工程を経て修復されます。何十ページとある資料を1枚1枚、キレイにしていく作業は、地道でとても根気がいる作業です。展示会場を案内して下さった、資料保全専門員である眞野節雄さんが「これらの書物はなにか・・・亡くなった図書館職員の大変な形見のように思うのです。私たちは被災地へ行って復興支援をすることはできませんが、本の修復作業は私たちにしかできない支援です」と話されていたのがとても印象的でした。



備考)東京都立中央図書館で修復を終えた第一次受け入れ資料は、2015年3月に陸前高田市に返還された。

2015（平成27）年度

県内の主な出来事

- 再建された小袖海女センター（久慈市）がオープン（4/26）
- 釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」世界遺産に登録（7/8）
- 県内で初めて、大船渡市の仮設商店街が本設移転オープン（7/12）
- 岩手県知事選挙（8/20無投票）、岩手県議会議員選挙（9/6投票）
- 小本津波防災センターが完成し、岩泉小本駅と一体化となる（12/23）



いわて復興応援隊に新たに6名を任命



三陸ジオパーク推進協議会事務局（4/1）

関 博充、熊谷 誠、船越 麻知子

三陸総合振興準備室（5/1）

千田 里佳

陸前高田まちづくり協働センター（6/1）

山本 健太

三陸ジオパーク推進協議会事務局（2016/2/1）

林 ちはる

2015 年度の活動

東日本大震災津波発災から4年目となり、被災した沿岸の観光施設のオープンや本設の商店が増え始め、7月には、橋野鉄山鉄鉱山（釜石市）が「明治日本の産業革命遺産」の一つとして世界遺産となるなど、沿岸に少しずつ活気が見えてきた。

新規採用者6名が加わり、三陸ジオパークの推進など復興のフェーズに合わせた分野にも活動を広げていくこととなった。隊員の自主企画として地域と連携して実施してきた「いわてさんりく恋列車」をモデルに、NHKがドラマ化した「恋の三陸列車コンで行こう！」が2016年2月に放映されるなど、地域の中で活動する応援隊の活動成果の一つとなった。

陸前高田市においては、応援隊やその配置先を含め復興支援に関わるNPOが協働で、首都圏において被災地の情報発信を行うなど、地域と共に歩む復興支援員の活躍が著しくなってきた。

また、当初の「復興支援員任期5年」を前に任期終了後の活動を考える機会が増えるとともに、隊員の被災地支援の取り組みや復興支援員等の活動の課題がメディアに取り上げられることも多くなった。

4月

ニコニコ超会議 2015 に応援隊出演（4月26日）

千葉県幕張メッセで開催された「ニコニコ超会議 2015」会場から生配信された「いわて希望チャンネル」に応援隊（洋野町、野田村、田野畑村配置）が出演し、岩手県ブースから岩手の魅力をPRした。岩手県公式 YouTube「いわて希望チャンネル」でも公開。



[いわて希望チャンネル\(アーカイブ\) ➡](#)



復活！机浜番屋群お披露目体験会（4月23日）

前年12月に復旧した机浜番屋群（田野畑村）で5月の連休から観光客受入が始まる前に県観光関係者を招きお披露目体験会を開催。

番屋管理者の NPO 法人体験村・たのはたネットワークで活動する応援隊からの呼びかけで、田野畑村産業開発公社配置の応援隊が参加。新しい体験メニュー「塩づくり番屋」での塩づくりと震災前から人気の「サッパ船ツアー」を体験取材。



5月

県政懇談会「がんばろう！岩手」に出席(5月19日)

「若者や女性による復興や復興支援等の取組」をテーマに宮古地区合同庁舎で開催された県政懇談会で、応援隊(田野畑村産業開発公社配置)が、観光分野における生業の創出と復興支援に関わる若者の定住、復興支援員任期後のフォロー体制について意見を述べた。

参考:岩手県 web サイト<県政懇談会「がんばろう！岩手」意見交換会(平成17年5月19日宮古地区)>



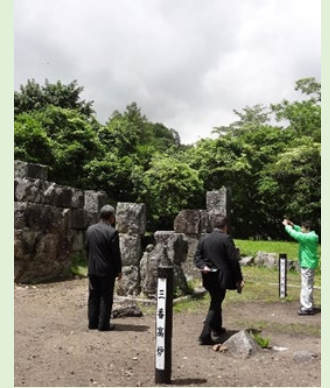
6月

世界遺産登録勧告を受けた橋野高炉跡を紹介

2015年5月にイコモス(国際記念物遺跡会議)が、橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」を世界遺産一覧表への記載が適当と勧告。勧告から一か月で6,000人が訪れたと報道された橋野高炉跡を訪ね、現地ガイドの案内を受けた様子をSNSで紹介。

橋野鉄鉱山(世界文化遺産)

ドイツ・ボンで開催された「第39回世界遺産委員会」において、橋野鉄鉱山を含む『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』の世界遺産一覧表への記載が同年7月5日に決定された。



7月

陸前高田 NPO キャラバン in 東京開催支援(7月11日)

陸前高田市内で復興・まちづくりに取り組むNPO11団体による「陸前高田 NPO キャラバン in 東京」が立教大学池袋キャンパスを会場に開催され、複数の応援隊が受入団体とともに登壇者や運営スタッフとして参加。

戸羽太陸前高田市長(当時)の基調講演に続き、「これからの4年、NPOは他のアクターとどう連携していくか」をテーマに戸羽市長とNPOがディスカッションを行った。また、「地域コミュニティ」と「リピーター・ファンの獲得」について、現場のNPOから報告があり一般参加者とともに被災地の現状と課題を共有し、今後のまちづくりはどうあるべきか NPOと行政それぞれの視点から活発な意見交換を行った。

■主催:陸前高田NPOキャラバンin東京実行委員会、共催:陸前高田市、協力:立教大学

■日時:2015年7月11日 13時~17時30分、会場:立教大学池袋キャンパス9号館(大教室)

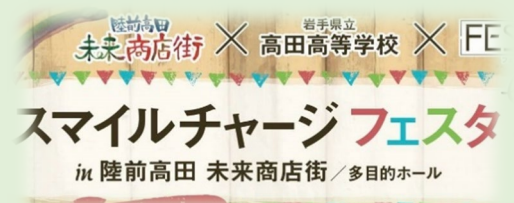
■シンポジウムには、いわて復興応援隊((一社)SAVE TAKATA 配置)の齊藤健祐隊員をはじめ、応援隊受入関係者など5人が登壇し「地域コミュニティ」「リピーター・ファンの獲得」について議論した。



「スマイルチャージフェスタ in 陸前高田未来商店街」開催支援(7月17日~19日)

岩手県「いわて三陸 復興のかけ橋事業」の一環で「平成26年度第1回沿岸交流会 in 盛岡」で出会った県内企業、地元事業者の連携で企画されたイベントが、7月17日から19日までの3日間開催された。

2015年6月から活動開始した応援隊(陸前高田まちづくり協働センター配置)が陸前高田市の仮設商店街を支援する中での企画が実現したもので、被災地で復興を目指す商店街「陸前高田未来商店街」に盛岡駅ビルの人気ショップの出店や、高田高校の美術部と書道部の生徒がデザインを手がけたオリジナルTシャツの展示会と人気投票コンテストの開催、地元のゆるキャラ「たかたのゆめちゃん」が登場するなど街の賑わいを創出する取組みの一つとなった。



平成27年度第1回いわて復興応援隊活動報告会開催(7月22日)

第1回いわて復興応援隊研修会と岩手県地域活性化セミナーとの併催で盛岡地域交流センター「マリオス」を会場に開催。

前半は、黒沢惟人氏(NPO 法人 wiz 理事)の講演「定住交流の取組について」と、県内の復興支援員、地域おこし協力隊の活動発表が行われた。

後半は、参加者全員が5つのテーマ毎のグループでワークショップを行い、それぞれの活動に対する思いや課題等について共有した。

復興支援員・地域おこし協力隊の他、県・市町村の担当職員や隊員受入れ等の関係者も参加し、熱い議論が飛び交う交流の場となった。



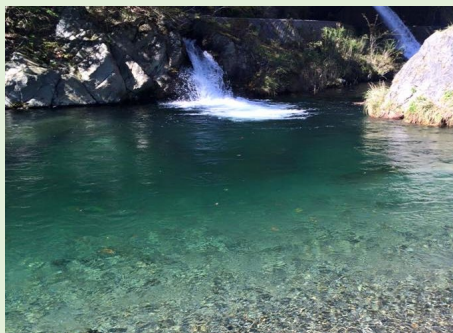
10月

いわて復興応援隊1期生が任期4年目を迎える

2012年10月から応援隊1期生として活動してきた応援隊9名が任期4年目を迎えた。既に同期の応援隊5人が新しい道に進んでおり、任期終了を見据えた活動を意識する年となる。

住田町の魅力を発信

10月から住田町観光協会に活動場所を移し、地域の魅力発信を支援を開始した応援隊が、住田の秋をSNSで紹介。同じ配置先の応援隊仲間と住田町観光PRキャラクターの「すみっこ」と共に住田町から気仙地域の復興支援に貢献していく。



いわてさんりく恋列車(第3回)開催(10月17日)

応援隊と応援隊配置先団体、地域企業、自治体等との連携で共同企画したイベント「いわてさんりく恋列車」開催。地域経済の活性化、観光資源の活用、交流人口の拡大、若者によるコミュニティ再生によるまちづくりを目的に隊員が中心となって企画・運営し3回目を迎えた。

翌2016年2月放送となるNHK特集ドラマ「恋の三陸列車コンで行こう!」の監督及びディレクターが実際に参加し、同イベントがどのような流れで実施されるか綿密に取材している。



地域おこし協力隊全国サミットinひょうご (11月28日、29日)

兵庫県神戸市において総務省主催「第2回地域おこし協力隊全国サミット」が開催され、協力隊や自治体関係者など約800名が参加。いわて復興応援隊及び当協議会事務局からも8名が参加した。

1日目は、主会場の神戸ポートピアホールで全国の協力隊の活動発表やパネルディスカッションが行われ、2日目は兵庫県内(篠山市、丹波市、南あわじ市、朝来市)の協力隊活動地域で分科会が開催され、参加者との交流を図った。



総務副大臣から激励(12月17日)

陸前高田市コミュニティセンターにおいて、視察中の総務省副大臣から同市を拠点に活動する応援隊6名が激励を受けた。

住田町上有住「新そば収穫祭」

12月の暮れに住田町上有住(かみありす)坂本集落で行われた「新そば収穫祭」に隊員が参加し、初めてのそば打ち体験など地域の食と伝統について紹介。



応援隊コメント(Facebookより)

地域のみなさんが地元の風景や伝統・文化を「宝」と認識していて、大切に守り残そうとしている。しかし、集落の住民が高齢化しているため受け継ぐ人がいないという危惧も同時に抱えていらっしゃるのでは。

1月・2月



黒森神楽(くろもりかぐら)と小正月

田野畑村机(つくえ)地区の小正月飾り「みずき団子」と同地区に巡行した「黒森神楽(宮古市の黒森神社に伝わる民族芸能・国の重要無形民俗文化財)」について紹介。

NHK特集ドラマ「恋の三鉄列車コンで行こう！」放送

2013年10月から応援隊が三陸鉄道をはじめ地域と連携して企画した「いわてさんりく恋列車」がモデルとなった、NHK特集ドラマが2016年2月から3月にわたり放送された。2015年12月に大船渡市で行われた撮影には、応援隊が婚活パーティー参加者などのエキストラで参加し、地元の新聞でも紹介された。

- 第1回放送「再会」2016年2月27日
- 第2回放送「告白」2016年3月5日
- 第3回放送「旅立ち」2016年3月12日

応援隊 Facebook より

「舞台は、岩手県西大船渡市(大船渡市ではなく)、主人公役の松下奈緒さんを中心に松坂慶子さん、村上弘明さん、安藤政信さん、南海キャンディーズのしずちゃんなど豪華キャストで繰り広げられる恋愛コメディです。私もちゃっかり(とりあえずオファーがあったので)いわて復興応援隊代表としてエキストラで参加しています。」



平成27年度復興支援員・地域おこし協力隊合同報告会開催(2月15日)

盛岡地域交流センター「マリオス」を会場に、県内復興支援員と地域おこし協力隊の合同報告会を開催。

午前中は、ゲストアドバイザーの稲垣文彦氏(公益社団法人 中越防災安全推進機構)が、新潟中越地震の事例から東日本大震災被災地域への人的支援の在り方について講演し「地域はどうなりたいのか? 住民はどうなりたいのか?」住民に寄り添い時間をかけて共に考える必要性を説いた。

午後は、県内で活動する応援隊をはじめ復興支援員、地域おこし協力隊が活動報告を行い、それぞれの発表の後に会場からの質問や稲垣氏からアドバイスを受けた。



平成 27 年度第 2 回いわて復興応援隊研修会実施(2月16日)

2月15日の合同報告会の翌日、当該年度第2回の応援隊研修会を実施。午前中は、県の3人の講師から「復興状況」「県の取組事例」「産学官の連携」について講義を受けた。

- ① 復興の現状と今後の計画(県復興局復興推進課)
- ② 三陸総合振興準備室の取組(県政策地域部三陸総合振興準備室)
- ③ 岩手県の産学官による地域創生の取組(県政策地域部地域振興室)



《会場》盛岡地域交流センター「マリオス」

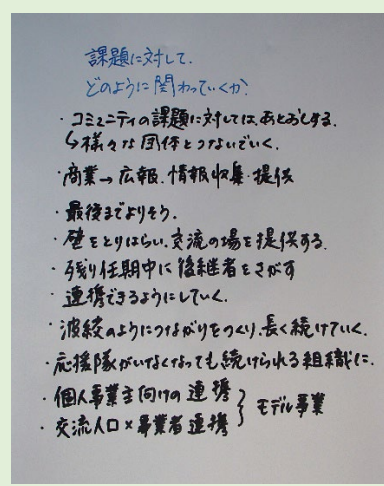
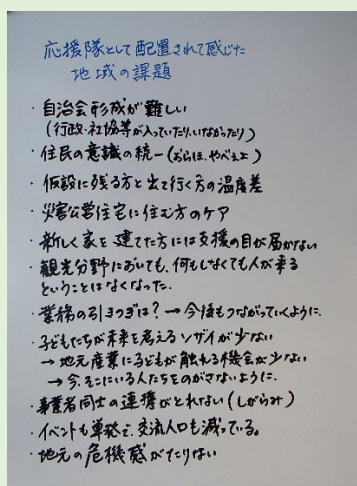
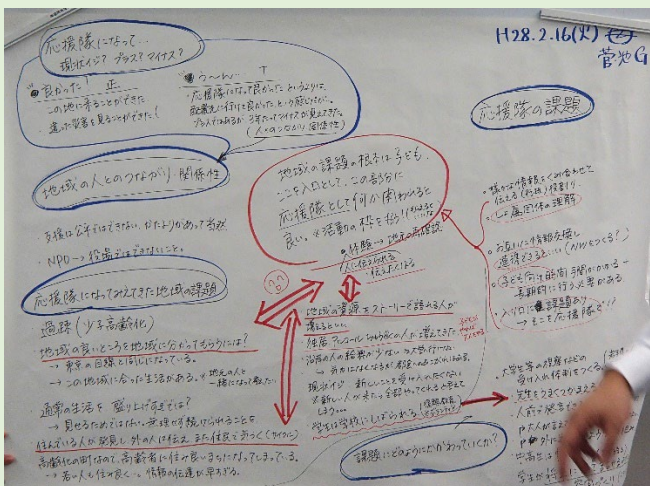
午後の前半は、稲垣文彦氏(公益社団法人中越防災安全推進機構)のコーディネートで、隊員5名と当会事務局長によるパネルディスカッションを3つの項目について行った。

地域の復興に向けた温度差、住民の危機意識の希薄さ、新しいコミュニティ形成の難しさなど課題が山積する中、隊員がどこまで寄り添うことが出来るか、任期期間中にどこまでつなげることが出来るか、それぞれの立場から模索する現状、まだこれからできること、目指す方向について討論が行われた。

- ① 応援隊として感じた地域の課題
- ② 課題に対してどのように関わっていくか
- ③ 応援隊の課題・目指すところ



後半は、パネルディスカッションで出された意見をもとに、活動分野で3つのグループに分かれ、多様な議論を展開。研修の総括として、稲垣氏から「復興支援員の1期生としてこれまで苦労した活動の中に次に続く隊員達のノウハウがあり、これを次へ活かさないまま終わることのないよう一緒にがんばっていきましょう」と隊員に向けエールが贈られた。



3月

応援隊勉強会「写真実技講習」(3月23日)

三陸鉄道配置でプロカメラマンでもある応援隊を講師に、情報発信のスキルアップを目的に隊員同士の自主勉強会を陸前高田市で実施し、より効果的なカメラ撮影のテクニックを学んだ。

応援隊 Facebook より

「日々の業務において写真を撮る機会が多く、写真のクオリティーアップを目指す隊員向けに、プロカメラマンでもある小石川隊員より写真講座を開催して頂きました。イベントでの人物の撮影、商品・料理等の撮影、風景の撮影など、目的にあわせたカメラの使い方や構図の決め方など、個々の疑問を解決する写真講習会でした。」



ふじのくに三陸復興応援フォーラムに参加(静岡市)

3月26日、静岡市で開催された「東日本大震災5年の集い・ふじのくに三陸復興応援フォーラム」に、地元出身の応援隊が参加。

約400人を超える参加者に向け、被災支援に取り組む岩手県内のNPOからのメッセージ、岩手県の遠野市、大槌町、釜石市、陸前高田市のリーダーが語る記念シンポジウムが行われた。

主催：東日本大震災5年の集い実行委員会
後援：静岡県、静岡県教育委員会、
岩手県、いわて定住・交流促進連絡協議会
会場：静岡県勤労者総合会館(静岡市)



うれいら商店街のっとり計画(岩泉町)

岩泉町配置の応援隊と同町中心商店街の若者達が、商店街の活性化を目的に行う企画。若者の自由な発想で、親世代に挑戦する新しい活動は、行政やマスコミでも紹介され、岩泉の魅力を県内外に発信する大きな流れにとなった。

応援隊 Facebook 投稿より

岩泉町の龍泉洞の近くにある「うれいら商店街」にて「うれいら商店街のっとり計画」というのを開催しています。各店の子供世代(次世代)が、「親(店主)の経営方針の制約を受けずに『本当はこれが売りたいんだこの野郎』というものをつないしー区画プロデュースすることで各店を乗っ取る、という企画です。



2016（平成28）年度

県内の主な出来事

- 久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ(久慈市)」営業再開(4/23)
- 盛岡市にいわて内陸避難者支援センター開所(5/20)
- 県内最大規模の県営災害公営住宅柗ヶ沢アパート(陸前高田市)の入居開始(8/1)
- 台風10号が岩手県に上陸(8/30)
- 県立山田病院(山田町)が再建し診療をスタート(9/1)
- 三陸鉄道北リアス線新駅「十府ヶ浦海岸駅(野田村)」開業(3/25)



総務省の復興支援員推進要綱の一部改正

2016年6月、総務省の復興支援員推進要綱が一部改正され、これまで最長5年としていた復興支援員の活動期間が「東日本大震災復興特別会計の設置期間中」に延長となった。

いわて復興応援隊1期生(2012年10月採用)の任期は1年を残すところとなり、6月に国から復興支援員の制度上の活動期間延長が通知されたが、当県においては、沿岸市町村等への応援隊配置は、当初の予定通り任期5年で終了することが示された。1期生に限らず新たな道を模索し、任期満了を待たずに退任する隊員や配置換えを希望する隊員が徐々に増えていった。

応援隊の活動が地域で認識され、配置先の事業等を通し成果が認識されるようになり、外部人材としての応援隊と復興支援活動の紹介と併せてマスコミ等で多く紹介された。

- | | | |
|-------|---|------------|
| 4/29 | 岩手日報「ここで輝く・自然と一緒に暮らす環境は都会にない魅力」田野畑村配置 | |
| 5/30 | 岩手日報「三陸人紀行・基石海岸インフォメーションセンターとみちのく潮風トレイルの取組」大船渡市配置 | |
| 7/14 | 岩手めんこいテレビ「輝け！復興の槌音・高田旅ナビアプリの紹介」陸前高田市配置 | |
| 7/21 | 岩手めんこいテレビ「輝け！復興の槌音・荒海団(荒海ホタテ)の取組」野田村配置 | |
| 9/30 | 岩手日報「ここで輝く・周囲のおかげで自分は生かされている」洋野町配置 | |
| 11/29 | 岩手日報「ここで輝く・地域をつなぐ潤滑油でありたい」野田村配置 | (2016年度一例) |

いわて復興応援隊を新たに1名任命

5月15日付けで、三陸ジオパーク推進協議会事務局に隊員1名(佐藤凌太)を配置し、2016年度は、隊員28名の体制でのスタートとなった。

また、4月に公益財団法人さんりく基金内に「三陸DMOセンター」が設置されたことから、三陸総合振興準備室に配置の応援隊はDMOの推進にも関わることとなる。

※ 2021年3月、(公財)さんりく基金(三陸DMOセンター)は、観光地域づくり法人(DMO)として登録される。



5月

世界お茶まつり2016 春の祭典に出展支援(5月13日～15日)

静岡県富士山静岡空港等を会場に開催された世界お茶祭り2016春の祭典で、応援隊が九戸村特産“あま茶”のPR支援。

東日本大震災による風評被害を乗り越え、甘茶の知名度を上げ、販路拡大、新商品開発に向け、県内外の各地を訪れ、地域とともに応援隊が支援した。復興支援員や地域おこし協力隊の報告会等でも会場に甘茶の試飲コーナーを設置するなど、どこに行くにもPRを欠かさなかった。

甘茶(あまちゃ)

アジサイ科の落葉低木アマチャの若葉を茶にしたもの。九戸村は国内有数の産地で、農薬や化学肥料を使用せず栽培されている。



市民・コミュニティのエンパワーメントプログラム事業「大人の遠足2016年5月便(一関市)」を支援

NPO 法人陸前たがだ八起プロジェクトが実施する「大人の遠足」は、復興が進む被災地で仮設住宅、復興公営住宅、自立再建による移転などに伴う、新しいコミュニティを支える活動の一つで、同法人配置の応援隊が中心となって支援。

同事業は、陸前高田市まちづくりプラットホーム Web サイトの2016年6月24日の記事でも紹介されている。

6月

地方創成・観光地域づくりセミナー in 久慈開催支援(6月1日)

地方創生の実現に向け、魅力ある観光地域づくりの推進役として期待される「日本版DMO」について理解を深めることを目的に、久慈市で開催され、応援隊も周知から当日の運営まで支援するとともに、DMOによる地域経営と観光マーケティングについて学んだ。

- 宮城県主催「ミーティング・ファシリテーション研修～参加者同士でつくりあげる場を目指して」に参加(南三陸町)
- 長野県茅野市における野生鳥獣肉活用の取組を応援隊が視察
- 応援隊(野田村配置)と野田村の復興支援員(のだむら復興応援隊)の共同企画ダンスイベント「ねま～るdeオド～ル」の様子をのだむら復興応援隊のSNSで紹介。
- 東日本大震災はじめ被災地の災害(復興)公営住宅のこれからを考えるシンポジウム参加(仙台市)



7月

岩手めんこいテレビ「響け！復興の槌音」で応援隊が支援する取り組みを紹介

【7月14日放送】

陸前高田市の「高田旅ナビアプリ」が取り上げられ、アプリ開発に取組む応援隊(SAVE TAKATA 配置)が同アプリを紹介した。

【7月21日放送】

応援隊(野田村配置)と『岩手 野田村 荒海団(あらうみだん)』※との取組みが紹介された。「荒海ホタテ」の魅力を野田村から発信し、首都圏を中心に販促支援、生産者、飲食店関係者、消費者との交流支援を積極的に行っていた。

※ 野田村の「荒海団プロジェクト」で地元漁師らにより結成された団体

- NHK朝ドラ「マッサン」応援推進協議会の活動を視察(北海道札幌市、余市町)
- ドリンクジャパン展示会「あま茶」出展支援(東京ビックサイト)
- 大船渡市基石海岸キャンプ場利用促進キャラバン隊支援(岩手県及び宮城県内)
- 東北ジオパークフォーラム参加(秋田県八峰町)
- ジオパーク新潟国際フォーラム参加(新潟県新潟市)



いわてで暮らそう！ シンポジウム

平成 28 年
8 月 8 日 (月)
14:00～17:00

人口減少社会に立ち向かうため、都会から岩手へ、人の流れを創り出す「ふるさといわて」を考えるシンポジウムです。ぜひ、ふるってご参加ください！

<p>開催内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主催 「ふるさと回帰の現状について」(C) ● 認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター 代表理事 高橋 公氏 ● 基調講演 「地域創生や団体の主体となった移住促進の取組について」(A) ● 出席者 陸前高田市長 佐藤 隆一氏、岩手県庁 企画課長 佐藤 隆一氏 ● トークセッション 「UI ターン促進の実践者に聞く！」 	<p>定住・交流に興味のある方、地域づくり団体、行政職員などどなたでもご参加いただけます。</p> <p>会場 ホテルルイズ 3 階 万葉の間 昼前(12:00～13:00) 昼後(13:00～14:00) (両席より及ぶ)</p> <p>※ 入場券は無料です。お申し込みは必ず必要事項を記入の上お申し込みください。 締切：8月4日(木) 17時</p> <p>※ 会場案内 岩手県観光情報センター 観光課 担当：荒井・青柳 電話：019-629-5194</p> <p>主催 岩手県、いわて県民・交流促進協議会 後援 IN S (岩手ネットワークシステム)</p>
--	--

県主催シンポジウムのフライヤーを作成(周知支援)

県、いわて定住・交流促進連絡協議会主催の「いわてで暮らそう！シンポジウム」のフライヤーを応援隊(陸前高田まちづくり協働センター配置)が作成し開催周知を支援。

当日は、応援隊をはじめ、県内の地域おこし協力隊、自治体職員、地域づくり団体等約 100 人が参加し、岩手の UI ターンについて活発な討論が繰り広げられた。

開催日:2016年8月8日、会場:盛岡市・ホテルルイズ

基調講演:「ふるさと回帰運動のこれまでとこれからを語る」

認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター代表理事 高橋 公氏

事例紹介:「住民による町づくりと定住促進・地域づくりとコミュニティ・スクール・移住」

長野県大町市定住促進アドバイザー 前川 浩一氏

トークセッション:「UI ターン促進の実践者に聞く！」

牛崎 志緒氏(ジョブカフェいわて)、小山 貴史氏(一関市まちづくり推進部)、

黒沢 惟人氏(NPO 法人 Wiz)、永井 尚子氏(元二戸市地域おこし協力隊)

「地域活性化セミナー-in 住田」開催(7月25日 復興支援員・地域おこし協力隊研修併催)

県といわて定住・交流促進連絡協議会の共催で、地域づくりの担い手の先進事例を紹介するセミナーと県内の復興支援員及び地域おこし協力隊の活動を紹介する研修会を併せて、住田町役場町民ホールを会場に開催。

元いわて復興応援隊で一般社団法人 SUMICA 副代表の佐々木敦代氏が「地域住民と外部人材との協働による地域づくり」と題して講演。隊員の活動発表は、大槌町・陸前高田市配置の応援隊と遠野市と一関市の協力隊が行い、応援隊受入団体でもある陸前高田市の一般社団法人 SAVE TAKATA 代表の佐々木信秋氏が「若興人家プロジェクト」の取組を紹介した。セミナー終了後は、古民家(町屋)を保存改修した住田町住民交流拠点施設「まち家世田米駅」で施設見学とお茶を飲みながらの情報交換会を行い、多くのセミナー参加者や関係者が和やかに交流をはかった。



平成 28 年度第 1 回いわて復興応援隊研修会(7月26日)

前日の地域活性化セミナーに続き、応援隊研修会を開催。午前中は、大船渡市及び陸前高田市において、同地域で活動する隊員が案内役となり、復興状況の現地視察を行った。

午後は、陸前高田市コミュニティホールを会場に、県や隊員受入団体代表の皆さんから気仙地域の地域振興とコミュニティ支援についての講義を受け、その後、隊員によるワークショップを行い、それぞれの活動を通しての支援の在り方を考えた。



8月

「平成28年台風第10号」が岩手県に上陸

8月30日夕方、大船渡市付近に上陸した台風10号は、宮古市から久慈市に猛烈な雨を降らせ、岩泉町では、小本川が氾濫し川沿いにあった高齢者施設の入居者9人が犠牲になるなど、東北地方から北海道地方にかけて広い範囲で河川の氾濫、住宅被害や孤立地域の発生など大きな傷跡を残した。

久慈市では、県外へ帰省中の隊員の自宅アパートと業務用車両が水没したため、帰省先から戻った隊員と合流した当協議会事務局職員と沿岸南部の隊員達が現地に入り、被災した隊員のアパートの泥だしや家具の洗浄を行った。また、応援隊は作業後、地元のボランティアセンターへ活動地域から預かった支援物資を届けている。応援隊員配置先である久慈商工会議所も被災したが、隊員アパートの廃棄物処理や当面の宿泊先の提供など寄り添った支援を頂いた。

久慈市配置隊員のコメント

(応援隊 Facebook より一部抜粋)

「すごく便利で快適だった我が家も中心市街地であり、久慈川の目の前にあったので、床上浸水されてしまいました。家は1mちょっと水に浸かり、公用車も水没。何より悔しいのはやっぱり、思い出のものが全部なくなったことです。割り切ろう！と思ってもやっぱり切れないものは切れない！家の片付けや泥かきは、本当にありがたいことに応援隊の仲間や県庁の方、職場の方のお陰で迅速に片付けました。1人じゃなんにも出来てないし、呆然としてたから本当に感謝しかないです。この場を借りて、みんなにありがとうございます！本当に本当に1人だとなにもできなくて、みんながいてくれて良かったです」



9月・10月

- 県工業技術センター及び盛岡スコーレ高等学校との連携でイワテヤマナシの加工商品開発(九戸村)
- アルゼンチン出身の写真家アレハンドロ・チャスキエルベルグ氏が、2012年から始めたプロジェクト「大植未来の記憶」の写真展を紹介。津波によって奪われた町の記憶を、写真によって取り戻そうという取組みで、震災後、同氏数回に渡り大植町を訪れ、地域の人たちと交流する中で完成した作品をはじめ、同町のアマチュアカメラマンや生徒・児童たちが撮影した写真約250点が展示された。(大植町)
- 三陸・大船渡東京タワーさんままつり運営支援(9/21～23・東京都)
- 平成28年第10号台風被害調査に同行(9/27・野田村ほか)
- 「商店街と地方都市との交流物産展」への出展支援(10/26～29・東京都)

いわて復興応援隊1期生(2012年10月着任)が任期5年目スタート(10月1日)

2012年14人からスタートした応援隊期生が任期5年目を迎えた。14人のうち7人がすでに新たな道に進み、それぞれの地域の担い手になっていたが、2期生をはじめ仲間の応援隊、地域の仲間とともに意欲的な5年目をスタートさせた。



11月

- 町内・集落福祉全国サミットin奥会津(福島県金山町)に参加(11/26~27・福島県金山町)
- 日本NPOセンター主催「市民セクター全国会議2016」に参加(11/23・東京都)

地域おこし協力隊全国サミット 2016に参加(11月27日・ベルサール東京日本橋)

総務省主催第3回地域おこし協力隊全国サミットが1,000人を超す来場者を集めて開催され、藻谷浩介氏が「地域の魅力と地域おこし協力隊」と題して講演。「首都圏・大都市で何が起きているか」について、人口の増減の問題を数字が示す事実から解説し、人と天然資源の循環再生の重要性を説いた。最後に「名声ではなく、貴方がやったことが500年残り続いていくことをしませんか？」と会場に問いかけた。パネルディスカッションでは、小田切徳美明治大学教授がコーディネーターとなり、現役・経験者の協力隊が「地域での定住に向けて」をテーマに、定住に向けての課題とどう取り組んだかについてディスカッションし、サブ会場では27地域の協力隊ブースが出展され、隊員の活動をPRしながら、イベントを多いに盛り上げた。



1月~3月

平成28年度第2回応援隊研修会(1月23日、岩手県公会堂(盛岡))

一般社団法人北上観光コンベンション協会・きたかみチョイス事業部プロジェクトリーダーの登内芳也氏を講師に迎え、東日本大震災の支援活動から北上市地域産業連携復興支援員として復興に関わった経緯や、北上市のふるさと納税業務を担う「きたかみチョイス」を立ち上げ、中小企業の支援を通して地域活性化を目指す取組みなどについて伺った。登内氏から「復興支援員という活動は、普通の人々が体験できないこと。自信を持って進んでもらいたい」とエールをもらった。



- ロケツーリズム先進地視察研修会参加(1/11・神奈川県綾瀬市)
- 東京築地市場いわて4村連携事業参加(1/19～20・東京都)
- 三陸ジオパークフォーラム開催支援(2/1～2・大船渡市)
- いわてわかすフェス出展参加(2/4・東京都)
- 子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム参加(2/11・釜石市)
- 持続可能な暮らしの足を考えるフォーラムin岩手参加(2/12・北上市)
- いわてグラフ3月号(2017年)で、岩泉町に定住した元応援隊と地域の人々との街づくりの取組と陸前高田市、野田村の応援隊が支援する地域の取組について紹介される。(県公式SNSでも紹介)
- 全国さるなし連絡協議会担当者会議参加(3/2～3・福島県福島市)
- 東北大学災害科学国際研究所シンポジウム「歴史をつなぐ、人をつなぐ-旧気仙郡における被災史料保全活動-」に報告者(三陸ジオパーク推進協議会推進員)として登壇(3/4・大船渡市)
- 共生社会の実現をめざすシンポジウム参加(3/11・盛岡市)
- 災害公営住宅・顔合わせ会研修会(3/15・山田町)
- 「復興の先を見据えた支援・住民もNPOも育つ復興支援の在り方」シンポジウム参加(3/22・東京都)
- 地方創生☆RESASフォーラム2017参加(3/26・東京都)
- 第3回JCN岩手ミーティング～コミュニティビジネスをコラボレーションする～参加(3/29・盛岡市)

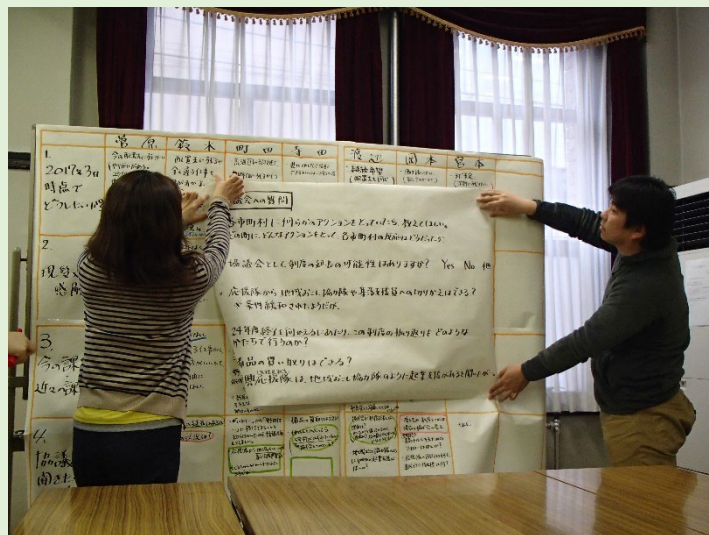


応援隊自主企画研修会開催(3月9日・岩手県公会堂)

2017年は、応援隊1期生が5年の任期を終える年であることから、3月9日、岩手県公会堂を会場に任期終了に向けた「応援隊自主企画研修会」を開催。隊員だけのワークショップを開き、結果報告から県や専門支援員が参加し、質疑応答や意見交換が行われた。

2012年度15名でスタートした応援隊1期生は、この時点で8名が活動しており、現在の不安や疑問、課題などを整理した。

① 現時点でどうしたいか？② 応援隊活動継続対する受入先の意向は？③ 今の課題、近々の課題は？ ほか



総務省復興支援員推進要綱の一部改正(2016年6月)

総務省から復興支援員推進要綱(平成24年1月6日付け総行人第60号)の一部について、「最長5年の期間」としていた活動期間を「東日本大震災復興特別会計の設置期間中」に延長する旨の通知があり、復興支援員が制度上は5年を超えて活動できることとなった。

いわて復興応援隊については、市町村への応援隊配置を当初の5年で終了とし、以降は原則、県及び県事業関係機関への配置とする方針が県から示された。

ほとんどの応援隊は、現在の配置先(配置地域)での活動継続を希望したため、該当する応援隊全員が最長5年の任期満了で活動を終えることとなる。

- 2017年4月採用のいわて復興応援隊(公益財団法人さんりく基金企画事業部配置)の公募を開始(2017年3月)

2017（平成29）年度

県内の主な出来事

- 陸前高田市に複合商業施設「アバッセたかた」オープン(4/27)
- 大船渡市に商業施設「キャッセン大船渡」オープン(4/29)
- 大阪府から釜石市へ無償譲渡のガントリークレーン供用開始(9/23)
- 陸前高田市の中心部に商業施設「まちなかテラス」と交流施設「ほんまるの家」がオープン(10/28)
- 釜石市民ホール「TETTO」がオープン(12/8)
- 三陸ジオパークが日本ジオパークとして条件付き再認定となる。(12/22)



応援隊1期生(2012年10月採用)は、5年の任用期間終了を迎える年となり、応援隊の活動が三陸沿岸市町村の支援から県の事業(組織)を通しての支援に移行していく一方、隊員が地域おこし協力隊等の交流会や研修会に地域を超えて参加する機会がこれまでより増え、県政懇談会(7月、12月)で知事や地域の若者と意見交換をするなど、復興支援員の存在が地域に認識されるようになり、隊員の活動も広がりを見せていく。

いわて復興応援隊に新たに3名を任命

- 4月1日付けで、県三陸総合振興準備室に応援隊2名(佐藤 有子、松尾 育恵)が着任
- 5月15日付けで、県三陸総合振興準備室に応援隊1名(阿久津 貴之)が着任
- 4月1日付けで、県三陸総合振興準備室から三陸DMOセンター(公益財団法人さんりく基金DMO事業部)が分離新設され、同室配置の応援隊(田村 絵里)は同センターへ配置替えとなる。
- 復興まちづくり大植株式会社から大植町(観光商工課)へ応援隊(松岡雄也)配置替え
- 出産育児のため活動を休止していた応援隊2名が、それぞれ4月、5月と活動に復帰



4月

応援隊配置先の陸前高田まちづくり協働センターが担当し、隊員がデザインした顔出し看板(施設玄関ホールに設置)

陸前高田市複合商業施設開業イベントを企画

複合商業施設「アバッセたかた」の開業に合わせ、街をみんなで盛り上げるイベントを市内NPOの仲間「チームNPO」と企画し、広く参加を呼び掛けた。

- ReVAボランティアチーム埼玉県上尾総会で陸前高田モビリア仮設住宅の現状報告を行った。(4/9)
- 飲食店のジオフード開発披露会に参加(4/17・田野畑村)
- 未来志向型住民自治を学び合う集い2017に参加(4/22・北上市)



5月・6月

- 全国地域づくり人材塾参加(滋賀県大津市・5/9～13)
- いわて若者交流ポータルサイト「コネクサス」の特集で洋野町配置の隊員を紹介
- 田野畑村の消防大演習(5/28)を応援隊Facebookで紹介
- 岩手日報で応援隊が洋野町内の中学校で行った「町の魅力発信授業」が紹介された。
- 小学校3年生の社会学習見学で、村の特産「荒海ホタテ」や村の水産業について説明し、子ども達と質疑応答(野田村)



7月

- 平成29年度地方創生実践塾in岐阜県高山市に参加(7/20～7/22)
- NHKラジオ番組「旅ラジ！」に隊員(洋野町配置)と元隊員(岩泉町在住)が電話で生出演し、応援隊の活動や地域の魅力を語った。(7/25)
- 第1回全国さるなし・こうわサミットin玉川村に参加(7/30～31・福島県玉川村)

平成29年度第1回地域おこし協力隊・復興支援員研修会参加(地域活性化セミナー共催)

主催:岩手県、いわて定住・交流促進連絡協議会

開催日:2017年7月14日、会場:サンセール盛岡(盛岡市)

- ① 講演:稲垣 文彦氏(公益社団法人中越防災安全推進機構業務執行理事)
- ② 事例発表:地域おこし協力隊(花巻市、雫石町)
- ③ パネルディスカッション:現役の応援隊、地域おこし協力隊及び経験者

講師の稲垣文彦氏(中越防災安全機構業務執行理事)が「復興支援員・地域おこし協力隊と地域のマッチングのために」をテーマに講演。地域おこし協力隊(花巻市、雫石町)の事例発表と、協力隊といわて復興応援隊の現役、OBを交え、「地域の中で気づいたこと考えたこと」についてパネルディスカッションを行い、着任当初、任期中、任期終了後とそれぞれが経験し気づいたこと、今考えていることなどを本音を覗かせながら語り合った。



8月・9月

- 地方創生実践塾in遠野「防災によるまちづくり」に参加(遠野市・8/4~5)
- Honda Smile Mission(ラジオ番組ブログ)で九戸村の「あま茶」と販促支援に取り組む応援隊を紹介(8/18)
- 全国のFMネットワークで作る番組「ニューマン・ケア・プロジェクト」の復興グルメシリーズ・北三陸編で野田村配置の隊員がインタビューを通して荒海団や荒海ホタテを紹介。(8/23)
- 全国ふるさと甲子園への久慈市のPR出展を支援(東京都・8/25~27)
- 県立大学海浜再生授業(陸前高田市立広田小学校)を支援(9/5)
- 釜石中学校防災学習の対応(山田町・釜石市、9/12, 9/19・20)
- 三陸・大船渡東京タワーさんままつり運営支援(9/22~24・東京都)



応援隊1期生(2012年10月採用)任期終了

応援隊1期生の7名が、9月30日をもって5年の任期を終えることから、5人の隊員が来庁し、県ふるさと振興部長に退任の挨拶とこれまで活動できたことへの感謝を伝えた。

任期終了後は、地域に残り活動を継続するもの、県内の団体に転職するもの、一旦故郷にもどり次の活動に備えるものと進む道は異なるが、これからも岩手に関わり続けたいという気持ちは同じだった。

- 菅原久美子(一般社団法人SAVE TAKATA 配置)
- 鈴木麻里子(NPO 法人陸前高田まちづくり協働センター配置)
- 渡邊 博(株式会社九戸村ふるさと振興公社配置)
- 寺田英人(軽米町配置)、町田恵太郎(野田村配置)
- 宮本慶子(洋野町配置)、岡本花織(住田町観光協会配置)



10月・11月

10月1日、陸前高田市・中心市街地まちなか広場がオープンし、応援隊と協力隊が子供たちと一緒に「ガーランドづくり」を実施

- 平成29年度みやぎ地域復興ミーティング「復興の担い手たちの今、共に自立の歩みを進める」に参加(10/18・宮城県石巻市)
- Jリーグ公式浦和レッズホームゲームに大槌町PRブース出展支援(10/14~15・埼玉県さいたま市)
- 地方創生フォーラムin青森に参加(10/19・青森県青森市)
- 全国シティプロモーションサミットin Shinagawaに参加(10/26・東京都)



岩手野田村荒海ホタテが「GI」登録

農林水産省が地理的表示「GI」保護制度に「岩手野田村荒海ホタテ」を追加登録。荒海団の活動支援をはじめ、荒海ホタテのブランド化、GI登録には、関係者とともに応援隊も奔走した。



12月

三陸ジオパークが日本ジオパーク条件付き再認定となる

2017年は、三陸ジオパークにとって、日本ジオパークの再審査の年であった。条件付きでの再認定とはなったが、同協議会事務局には、これまで配置してきた5名が積極的に支援し、各自治体及び認定ガイド、地域の関係者と連携し取り組んだことが結果に結びついている。

2月

平成 29 年度第 2 回いわて復興応援隊研修会(2018 年 2 月 16 日、盛岡市つなぎ温泉「清温荘」)

応援隊 1 期生の9月退任につづき、応援隊2期生(2013 年4月採用)が4月で5年の任期を終えることから、本年度2回目の研修会前半は、これまでの活動を振り返り「被災地支援と自分」をテーマに、これまでの自分とこれからについて意見を交わした。後半は、「地域の今後」について、抱える課題と希望的未来について、全員でディスカッションした。



3月

いわて復興応援隊 2018 年度採用の募集開始

いわて復興応援隊の活動は、2018年度から県事業等への配置にシフトし、県及び県関係機関(三陸ジオパーク推進協議会、三陸鉄道株式会社、三陸DMOセンター、三陸防災復興博実行委員会(仮称))で活動する隊員の募集を3月1日から開始した。

いわて復興応援隊2期生が退任のあいさつ

2013年4月15日採用のいわて復興応援隊2期生が、4月14日で5年の任期が終了となり、任期満了を待たず退任する隊員もいることから、全員が揃う3月29日、県庁に集合し退任の挨拶を行った。



池田陽一 (NPO 法人陸前たがだ八起プロジェクト配置)、渡邊悦子 (NPO 法人体験村・たのはたネットワーク配置)
佃実佳・酒井菜穂子・種坂奈保子 (NPO 法人陸前高田まちづくり協働センター配置)、美濃はるか (住田町観光協会配置)
松岡雄也 (大槌町配置)、中野貴之 (大船渡市観光物産協会配置)、池一恵 (久慈商工会議所)
田村絵里 (三陸 DMO センター配置) は活動継続となり、2015 年 4 月採用の関博充は転職のため 3 月末で退任となった。

2018（平成30）年度

県内の主な出来事

- 東北絆まつり2018盛岡開催(6/2～3)
- 大槌町文化交流センター「おしゃち」開館(6/10)
- 岩手県初のフェリー航路「宮古・室蘭フェリー」出航(6/22)
- 釜石鵜住居復興スタジアム完成(8/19)
- 宮古市中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」供用開始(10/1)
- 陸前高田市立気仙小学校再建(県内被災公立学校全て再建)(12/14)
- 三陸鉄道「リアス線」全面開通(北と南が1本につながる)(3/23)



沿岸市町村の配置から県事業関係機関への配置へ

応援隊1期生(2012年採用)、応援隊2期生(2013年採用)の5年の任期が終了し、2018年度より応援隊の配置先を沿岸被災市町村から県の三陸復興事業(機関)にシフト。沿岸の各広域振興局、三陸パーク推進事業、三陸防災復興プロジェクト、移住・定住事業など広域な支援活動を行うこととなる。

いわて復興応援隊、新たに10名が着任

4月

- 鷲塚 由美子 (三陸ジオパーク推進協議会事務局配置)
- 熊谷 昌夫 (三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課配置)

5月

- 町田 恵太郎 (特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会配置)

6月

- 新井田 舞 (特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会配置)
- 菊池 啓 (県沿岸広域振興局 経営企画部 産業振興室配置)
- 大塚 光太郎 (県沿岸広域振興局 大船渡地域振興センター配置)
- 真部 渉 (三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課配置)

7月

- 宇夫方 杏奈 (三陸鉄道株式会社配置)

10月

- 高橋 美紀 (いわて定住・交流促進連絡協議会配置)
- 田高 正博 (三陸ジオパーク推進協議会事務局配置)



2018年度応援隊配置先と隊員の主な活動

既に隊員を配置していた3つの機関のほか、三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課、当協議会の定住・交流推進部、沿岸の各広域振興局が新たな配置先となる。県広域振興局への配置は、受入の調整がつかない等の理由により、宮古地域は翌年度からの配置となり、久慈地域は県と連携した地域のNPOへの配置からスタートした。

応援隊配置先	隊員の主な活動(2018年度)
特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会(久慈市)	<ul style="list-style-type: none"> 県北広域振興局(久慈地区)との連携事業 県北沿岸地域のツアー造成及び三鉄との連携による観光振興等
県沿岸広域振興局 経営企画部産業振興室(釜石市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸ジオパーク現地推進の支援 三陸DMOセンターとの連携による観光振興 三陸防災復興プロジェクトの現地支援 ほか
県沿岸広域振興局 大船渡地域振興センター(大船渡市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸ジオパーク現地推進の支援 三陸DMOセンターとの連携による観光振興 三陸防災復興プロジェクトの現地支援 ほか
三陸鉄道株式会社(宮古市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸鉄道を活用した観光ツアー企画、沿線企業と連携した特産品開発支援、イベントの画像記録及びポスター・チラシの宣材制作。 公式SNS・HP及び動画サイトによる情報発信 首都圏駅構内映像及び中吊り広告等の企画、ヘッドマークのデザイン企画ほか <p>三陸鉄道には、2015年1月から2023年3月まで、3名の応援隊を配置</p>
三陸ジオパーク推進協議会事務局 (宮古市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸ジオパーク普及啓発活動、県内町中学校でのジオ授業実施 広報紙「さんりくジオだより」編集、公式SNSによる情報発信等の広報活動 三陸ジオパーク認定ガイド養成支援、関係機関との連携推進ほか <p>2018年は6名の隊員を配置したほか、沿岸の各振興局に配置した隊員が現地推進員の役目を担った。同協議会事務局には、2014年5月から2023年3月まで10名の隊員が配置され、振興局配置の隊員をはじめとする多くの隊員が三陸ジオパークの普及、地域及び関係者との協力体制構築を進め支えた。</p>
(公財)さんりく基金 DMO 事業部 (三陸 DMO センター※当時は盛岡市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸観光プランナーの養成支援 三陸観光ポータルサイトの運営支援(情報収集、情報発信) 沿岸各振興局(観光地域づくりコーディネーター等)との連携 <p>2017年4月から2023年3月まで、同センターを通じた支援に隊員1名を配置したほか、沿岸の各振興局に配置した隊員が現地推進の役割を担った。</p>
三陸防災復興プロジェクト 2019 推進室 (盛岡市)	<ul style="list-style-type: none"> 三陸防災復興プロジェクト2019イベント運営支援 関係市町村及び団体、地域住民等との関係づくり 開催記録作成及びプロジェクト事業継承の支援 <p>同推進室へは、2018年4月から隊員4名を配置したほか、他事業配置の多くの隊員が地域と共に同プロジェクトを支援した。</p>
いわて定住・交流促進連絡協議会 定住・交流事業(盛岡市)	<ul style="list-style-type: none"> 定住・交流事業に関する情報発信 移住相談窓口対応 復興支援員、地域おこし協力隊の募集周知及び定住支援

4月

三陸防災復興プロジェクト2019推進室に応援隊を配置

2019年上半期に開催する「三陸防災復興プロジェクト 2019」を支援するため、新たに採用となった隊員を含め応援隊3名が県盛岡合同庁舎に開設された同イベント事務所で活動を開始。

5月

三陸ジオパーク推進協議会事務局へ応援隊を配置

4月に新規採用の隊員1名を配置したほか、同協議会の要請により三陸防災復興プロジェクト2019推進室からジオパークに関する知見を有する隊員1名が同協議会に異動し、三陸ジオパークの推進体制の強化を図る。

- ジオパーク新任者研修会参加(東京都)
- みちのく潮風トレイル(八戸～普代)利用促進協議会総会参加(八戸市)

応援隊1期生が再び応援隊に！

2017年9月末に5年の任期を終えた元隊員が、久慈地域を支援する応援隊として着任し、県庁で行われた着任研修会では、盛岡勤務(三陸防災復興プロジェクト2019、三陸 DMO センター)の応援隊仲間が、それぞれの担当事業の共有を行った。

6月

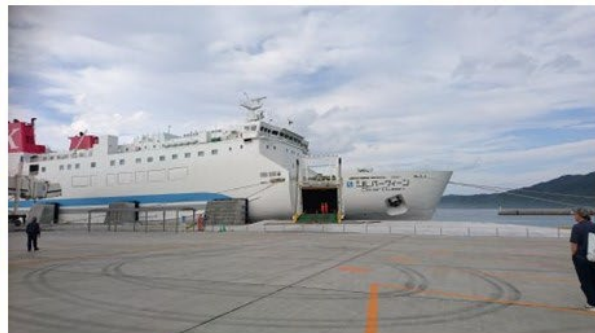
隊員同士の連携活動が始動

6月に新たに4名の隊員が着任し、隊員同士が連携をはかり、隊員自ら三陸を知り、内外に発信する取組が進められ、地域と各事業等(三陸ジオパーク、三陸防災復興プロジェクト 2019、三陸鉄道、三陸DMO)を積極的につなげる取組みをスタートさせた。

三陸防災復興プロジェクト2019

2019.6.1[sat]—8.7[wed]

つながる。ひとつになって 更に前に進む。



- 岩手県初のフェリー航路「宮古・室蘭フェリー」の出航を紹介
- 東北絆まつり2018盛岡で三陸沿岸をPR(盛岡市)
- 県沿岸広域振興局主催「食を活用した地域PRシンポジウムin気仙」に参加(大船渡市)
- 三陸観光プランナートライアルツアーに参加(久慈市、洋野町)

陸前高田市で「海浜植物授業」をサポート(6月～9月)

岩手県立大学の島田直明教授の指導のもと、陸前高田市立広田小学校「海浜植物授業」をサポート。

震災の津波で大きなダメージを受けた陸前高田市の大野海岸の現状を子供たちと一緒に学びながら、失われた海浜植物(ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマニガナ)を種から育て、砂浜に植え、砂浜の復活を見守る取組みで、授業に参加した子供たちは「海水浴客も地元の人も海浜植物を守っていきたい」と現在もその思いと活動は受け継がれている。



7月

- 三陸鉄道株式会社に隊員1名を配置
- 三陸復興プロジェクト2019関係者との打合せのため県外訪問(兵庫県西宮市、香川県高松市、宮城県石巻市)
- 岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム参加(宮城県栗原市)
- 宮古版DMOマーケティング研究会参加(宮古市)
- 「d design travelワークショップ」参加(盛岡市)
- 「教員のための博物館の日in気仙」参加(大船渡市)

浄土ヶ浜自然公園クリーン作戦に参加(宮古市)

7月の連休初日に実施された「浄土ヶ浜自然公園クリーン作戦」に参加した様子を紹介。地域の人たちが、浜に打ち上げられるコンクリート片、木片、プラスチックゴミなど本来自然には混じらないものを人の手で取り除き、白い岩肌の美しい景観を守り続ける地域活動の大切さを伝えた。



8月

三陸ジオパーク北部エリアの現地研修を実施

応援隊と県観光コーディネーターが、三陸ジオパーク北部エリアをより深く知るために自主企画の現地研修を実施。久慈地域で活動する三陸ジオパークの認定ガイドの田高正博さんの案内で北三陸の大地の成り立ちなどについて学んだ。ガイドの田高さんは、同年10月からいわて復興応援隊として活動することとなる。

- 東北ジオパークフォーラムin下北パークに参加(青森県むつ市)
- 「第2回青森フォトロゲイニング大会inおおわに」に参加(青森県大鰐町)
- 三陸鉄道「つながる三陸PRキャンペーン」ラッピング列車披露セレモニーで司会(宮古市)



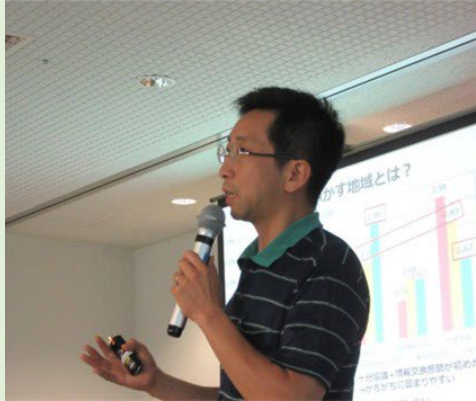
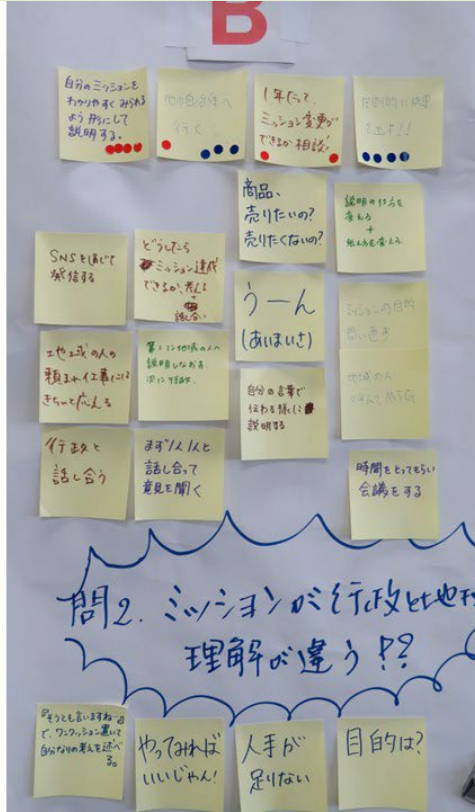
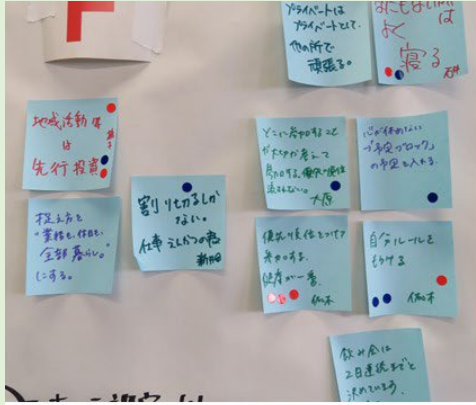
平成30年第1回地域おこし協力隊等研修会開催(8月2日・盛岡地域交流センター「マリオス」)

弘前大学大学院准教授の平井太郎氏を講師に迎え、地域おこし協力隊や復興支援員などの外部人材が地域とどうつながり、地域と共にどのように地域を作っていくのかについて講義を受けた。

花巻市・葛巻町の協力隊活動事例紹介の後、研修後半は、行政や関係団体のグループは別室で意見交換を行い、隊員(現役・元)は、平井氏のコーディネートによるクロスロード形式のワークを行い、活動を通しての疑問、課題、提案など意見を出し合い議論した。

《主催》岩手県、いわて定住・交流促進連絡協議会

《対象》地域おこし協力隊・復興支援員(現役・元)、自治体職員、関係団体ほか



9月

ボランティア休暇を活用し県外被災地を支援

大船渡地域振興センター配置の隊員が、9月10日～14日の5日間、ボランティア休暇(特別休暇)を活用し、大阪北部地震及び西日本豪雨災害等の被災地支援団体協力の下、大阪府箕面市、広島市安佐北区、愛媛県宇和島市、福岡県朝倉市、熊本県益城町等で支援活動を行い、現地の情報を7回にわたりSNSで伝えた。



- みちのく潮風トレイルサイクリング☆トライアルツアーin釜石に参加(釜石市)
- 三陸ジオパーク中部ブロック会議設立総会に参加(宮古市)
- 久慈秋まつりで街中を練り歩く豪華絢爛な山車パレードを紹介(久慈市)
- ツーリズムEXPOジャパン2018(東京ビックサイト)で三陸ジオパークをPR

10月・11月

- 日本ジオパーク全国大会アポイ岳大会参加（北海道様似市、三笠市）
- 「いちログ！～いちのせき防災フォトロゲイニング2018に参加（一関市）
- 三陸鉄道動物ふれあい列車「にゃん鉄」の企画・運営を支援（釜石市～大船渡市）
- 三陸鉄道リアス線全線開通に向けたカウントボードお披露目（宮古市）
- JR八戸駅で開催された東北エモーション5周年記念イベント（八戸駅）で元応援員の宮本慶子さんが1日駅長を務めた。



12月

平成30年度第1回いわて復興応援隊研修会（12月14日・岩手県公会堂）

研修会前半は、県の事業間連携を応援隊が関わりながら進めている「三陸DMOセンター」「三陸防災復興プロジェクト 2019」「三陸ジオパーク」の事業概要や進捗状況等を、改めて県の各事業担当者から説明を受け、隊員それぞれの立場から質疑応答を行い、後半は、応援隊として様々な事業の連携をどのように支援していくべきか、課題はなにかについて話し合った。

応援隊の活動が県事業へシフトする中、メンバーも大きく変わり、隊員同士のコミュニケーション不足を原因とする様々な問題も増えていたことから、隊員間のつながりを強化し、事業や地域の枠を超えて活動していくための提案を行った。



- 大船渡市の基石浜の清掃活動に参加。参加した地域の人達から「基石浜の石は7色ある」と教わったことをSNSで紹介。（12/11）
- 三陸ジオパークのジオサイトを学ぶため、県北ブロックを中心に活動する三陸ジオパーク認定ガイドと一緒に宮古市の浄土ヶ浜を視察。久慈エリア、三陸ジオパーク推進協議会に配置の隊員が、主体的に視察を企画し、地域の認定ガイドと共に学び交流する機会を作った。（12/19）



1月

平成30年度第二回いわて復興応援隊研修会(1月30日、盛岡地域交流センター「マリオス」)

同年度2回目の応援隊研修会を地域づくり人材活動事例発表会と併催。

県内で活動している地域おこし協力隊や復興支援員をはじめ地域づくり活動を行っている人材が一堂に会し、日頃の活動や未来への提案を発表した。

講師に齊藤俊幸氏(イング総合計画株式会社代表取締役)を迎え「地域ビジネス最前線事例紹介」について講義を受けた。その後は、3つの分科会「観光・交流人口の拡大」「起業・地域資源を活用した地域産業の活性化」「地域コミュニティの活性化、移住・定住の促進」に分かれ、いわて復興応援隊(現役・元)を含む21人が発表した。



2月

第5回地域おこし協力隊全国サミット「災害復興と地域おこし協力隊」に参加(東京都)

地域おこし協力隊制度が創設され10年。2004年新潟県中越大地震の支援活動から誕生した「地域復興支援員」が協力隊制度の基となり、2011年に発生した東日本大震災からは、復興支援員が活動を開始した経緯から、その後相次ぐ熊本地震、大阪北部地震、西日本豪雨などの災害に、地域おこし協力隊も復興支援員もそれぞれの地域で支援を行っているという報告がパネルディスカッション冒頭に報告された。

災害に直面したその時何を思い、それぞれの地域の隊員がどう動いたかを、5人のパネリストにコーディネーターを中越防災安全推進機構ムラビト・デザインセンター長の阿部巧氏が務め、これからの協力隊の可能性についてディスカッションした。

隊員同士の日頃のつながりが災害時の連携として機能し、現場の隊員に対し、近隣だけでなく遠方の隊員による後方支援を次々に繰り出し対応してきたことが共有され、災害時の隊員、隊員経験者のネットワークによる新たな可能性を感じるサミットとなった。



3月

応援隊2名(大船渡市、久慈市配置)が1年の任期満了で退職。これにより気仙地域の隊員配置は終了となった。

2019（令和元）年度

県内の主な出来事

- 三陸防災復興プロジェクト2019開幕(6/1)
- 東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」開館(9/22)
- ラグビーワールドカップ2019日本大会釜石開催(9/25)
- 台風19号が岩手県に上陸(10/12)
- 県沿岸部の災害公営住宅5,550戸の整備完了(11/5)
- 三陸鉄道、台風19号被害からの全線再開(3/20)

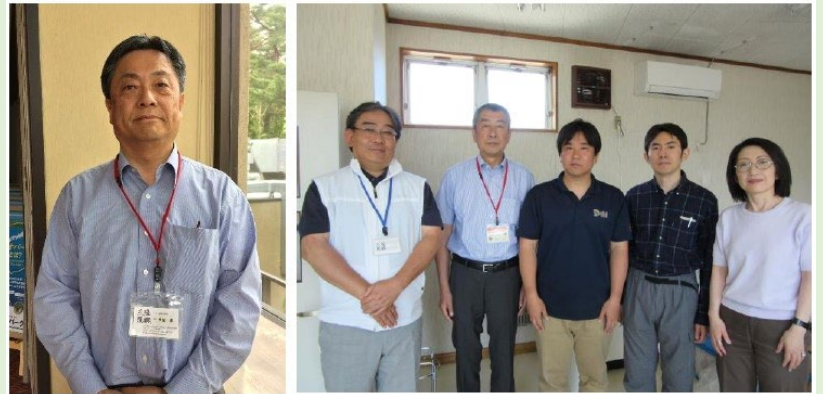


いわて定住・交流促進連絡協議会の組織改正（4月1日）

いわて定住・交流促進連絡協議会は、いわて復興応援隊受入事業を行う復興・地域振興部（ふるさと振興部地域振興室所管）と定住・交流事業を行う定住・交流推進部（商工労働部定住・雇用労働室所管）の共管体制となった。

いわて復興応援隊に新たに1名を任命

5月に県沿岸広域振興局宮古地域振興センターに隊員を1名を新たに配置し、また6月には、久慈市に開設した当協議会現地事務所に、応援隊2名を駐在させ、北三陸地域を中心に広域な復興と地域振興の支援をスタートした。



《5月7日着任》

里館 徹（県沿岸広域振興局宮古地域振興センター配置）

《6月1日配置替え》

町田 恵太郎、田高 正博（いわて定住・交流促進連絡協議会久慈事務所駐在）

久慈事務所開設（6月1日）

久慈駅前開設した久慈事務所には、隊員の活動期間や実績を備え、グリーン・ツーリズムインストラクターや三陸ジオパーク認定ガイド等の資格など十分な経験も持つ隊員2名を駐在させ、隊員の主体性を重視し、管理者は常駐せず、県北広域振興局（久慈）や関係市町村、地域おこし協力隊や地域づくり団体等との連携による地域振興を目的としてスタートした。

管理者が常駐しないことについて、当初は勤怠管理等の問題を懸念する声もあったが、毎朝、盛岡の事務局（専門支援員）とリモートで出勤確認と前日の報告と当日の予定等を確認し、日常にビジネスチャットツールを活用するほか、月1回は事務局が来所して定期ミーティングを実施する方法で運営することで日々の業務管理及び勤怠管理が適正且つ効果的に行うことが出来た。

同事務所には、地域おこし協力隊や三陸ジオパークの関係者、県市町村の職員、地域の事業者などが気軽に立ち寄り、情報交換、ジオパークや地域づくりの自主研修、オンライン会議の会場として対応するなど、地域交流の場としても機能し、応援隊の活動は、沿岸北部から隣県を含めた広域に及び、ジオパークの講師や様々な事業のサポート、ドローンを活用した動画作成の協力、地域ガイドブックの制作や観光掲示・展示方法のアドバイス、地域おこし協力隊等の活動支援など地域に求められる活動を地域に伴走する姿勢で取り組むなど、北三陸エリアの地域振興に貢献し、期待以上の大きな成果を残した。



4月・5月

さんりく駅-1グルメの第14号 2019年特別版

三陸鉄道沿線周辺のおすすめグルメ(飲食店)を紹介するフリー冊子「さんりく駅-1グルメ」を、三陸鉄道を支援する応援隊が「駅-1グルメ調査隊」としてPR。

久慈駅のエモーションを紹介

久慈駅で久慈広域観光協議会が実施している歓迎セレモニーを紹介。洋野町で応援隊が中心となって始めた「洋野エモーション」と同じく、久慈駅を訪れた人たちに大漁旗を振って出迎えるおもてなしを行っている。

三陸防災復興プロジェクト2019のプログラムを紹介

さんりく文化芸術祭2019にて上演するオペラ「四次元の賢治-完結編-(7月13日、釜石市で上演)」の紹介とチケット販売等をPR

「インバウンド向けラッピング列車」お披露目会を取材(5月22日)

三陸鉄道リアス線大船渡派出所車両基地で開催された「インバウンド向けラッピング列車お披露目会」を取材。同列車は「三陸地域へ来られた外国人観光客の皆様へ、Welcome メッセージや三陸の魅力を発信し、親近感や好感度の向上を図ること」を目的として岩手県沿岸広域振興局が企画し実施した。



6月・7月

三陸防災復興プロジェクト2019 開幕(開催期間:6/1~8/7)



- 三陸ジオパークフォーラム&エクスカーションツアー
- 三陸国際ガストロミー会議2019
- 三陸プレミアムランチ列車
- 三陸ジオパークフォトロゲイニングフェスティバル
- さんりく文化芸術祭2019
- さんりく音楽祭2019
- 三陸防災復興シンポジウム2019 他

「三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって更に前に進む。」の基本コンセプトのもと、県沿岸の13市町村を会場に、東日本大震災津波からの復旧・復興に取り組む地域の姿と復興支援への感謝を伝え、震災の教訓と防災の啓発を未来に継承するとともに三陸地域の多様な魅力を国内外へ発信し新しい三陸の創造につなげることを目的として開催されたプロジェクト。同プロジェクトの運営には、実行委員会事務局に配置された隊員のほか、沿岸の各振興局や久慈事務所、三陸ジオパーク推進協議会、三陸鉄道、三陸DMOセンター等各事業に配置された隊員や退役隊員も多く関わり、各地で開催されたイベントの成功を支えた。



『シバザクラいっぱいプロジェクト(野田村)』

6月9日、野田村で東日本大震災津波で多くの家屋が流された場所が現在は公園となっており、その遊歩道沿いに地元の子供やお年寄りが、他県からの派遣職員と一緒に、約 3,200 本のシバザクラを植えた。



「三陸・被災地フロントライン研修」

6月10日・11日、三陸鉄道が参加者(団体)のニーズに合わせて企画・実施された三陸沿岸被災地の現地視察研修を応援隊が同行取材し、応援隊 SNS で紹介した。県が沿岸市町村と連携し、各地域の被災・復興状況を防災・減災と三陸鉄道を利用促進も目的に案内する研修プログラム。



御箱崎・千畳敷の魅力を紹介(6月17日)

釜石市商業観光課職員のガイドで、三陸ジオパーク推進協議会のメンバーとともに三陸ジオパークジオサイトの一つで釜石市御箱崎の「千畳敷」を視察。絶景の画像とともにその魅力を SNS で紹介。

三陸グルメ祭り(7月13日・14日)

宮古駅前で開催された「三陸グルメまつり」を当日、現地から SNS で発信

岩手つながる協力隊主催の交流ツアーに参加(7月22日)

県内の復興支援員や地域おこし協力隊の移住定住支援の活動する応援隊が、県南地域で開催された日帰りツアーに参加し、運営側の支援とともに参加した隊員同士の交流を深めた。

もぐらんぴあ水族館「岩手の海とジオの魅力展」紹介

三陸防災復興プロジェクト2019関連事業としてもぐらんぴあ水族館の企画展をクラゲの動画と共に紹介。



岩手県立博物館地層観察会

三陸ジオパーク認定ガイドでもある応援隊が、三陸防災復興プロジェクト2019プログラム「三陸ジオパークわくわくフェスタ」で開催された野田村野田漁港の地層観察会に参加。三陸ジオパークジオサイトに登録されている「大唐の蔵(だいとうのくら)」を見学し、海岸沿いの火山灰に埋もれた立木の化石や純白の地層について SNS で紹介。

「1000km縦断リレー2019」ゴール式(宮古市)

青森から東京まで、東日本大震災被災地をランニングでつなぐ「1000km縦断リレー2019」の3日目の様子を宮古地区合同庁舎前から動画で紹介。

令和元年度第1回いわて復興応援隊研修会開催(7月23日・岩手県公会堂)

同年度1回目の応援隊研修は「いわて定住・交流促進連絡協議会の組織体制の改編」と「久慈事務所開設」について説明を行った後、開催中の「三陸防災復興プロジェクト2019」の状況と今年度の隊員の活動について共有した。

同研修会には、県事務局とオブザーバーとして清水定住・交流促進専門員が同席し、隊員と共に隊員が抱える活動課題と今後の活動の進め方について意見交換を行った。



8月・9月

マリノローズパーク野田玉川で地域資源の勉強会開催

久慈事務所が地域の事業者との連携で、野田村の特産品「マリノローズ」と採掘坑道の観光ガイドのポイントについて勉強会を企画。講師は、三陸ジオパーク認定ガイドでもある久慈事務所の田高隊員が務め、野田村役場と県北広域振興局も参加し、マリノローズパークスタッフと一緒に、地域の宝の魅力伝える方法について学んだ。



三鉄累計乗車人数 5000 万人達成！(8月26日)

1984年の開業から36年目で三陸鉄道の累計乗車人数が5,000万人を達成した記念セレモニーを開催。5,000万人目となった宮古高校3年生がくす玉を割る様子を応援隊がSNSで紹介。

三陸ジオパークの魅力をVR体験でPR

イベントや商業施設等様々な場所で、三陸ジオパークから地域の魅力を知ってもらうためのPR活動を展開。9月は、イオンタウン釜石でVRヘッドセットによるジオサイトの体験や子供たちとプラスチック粘土でアンモナイトの化石づくりを楽しんだ。



10月

《台風19号(令和元年東日本台風)による被害》

10月12日、岩手県に上陸した台風19号は、三陸沿岸の各地に大きな被害をもたらした。この年の3月に全線開通した三陸鉄道も路盤・盛土の流出やのり面崩壊、土石流等の被害を受けた。

応援隊は、それぞれの活動拠点を中心にSNSで地域の被害状況や復旧が進む様子を発信し、記録として残した。

台風が上陸した翌日の10月13日に、釜石鶴住居復興スタジアムで開催を予定していたラグビーワールドカップ2019のナミビア対カナダ戦は、やむを得なく中止となったが、カナダの選手は復旧ボランティアに参加し、ナミビアの選手はキャンプ地の宮古市で市民と交流するなど三陸を支援したことがマスコミ等で伝えられた。



みちのく潮風トレイルのプロモーション映像制作ロケに協力出演

みちのく潮風トレイル名取トレイルセンターからの依頼を受け、みちのく潮風トレイルのプロモーション映像ロケに隊員が現地ガイド役として協力出演し、岩手県野田村と普代村で撮影を行った。映像は、名取トレイルセンター(宮城県名取市)で公開。

ぼうさいこくたい2019 in名古屋に参加(10月19日・20日)

内閣府ならびに防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する防災推進国民大会「ぼうさいこくたい」が名古屋市を会場に開催され、三陸ジオパーク推進協議会配置の応援隊が防災の観点から三陸ジオパークの取組について紹介した。

岩手県全域合同移住イベントの運営支援(10月20日)

岩手県主催「いわて一風と土の集いーイーハト一部の暮らしと移住の始め方 in 東京」が東京有楽町の東京交通会館で開催され、応援隊が現地の様子をSNSで発信。

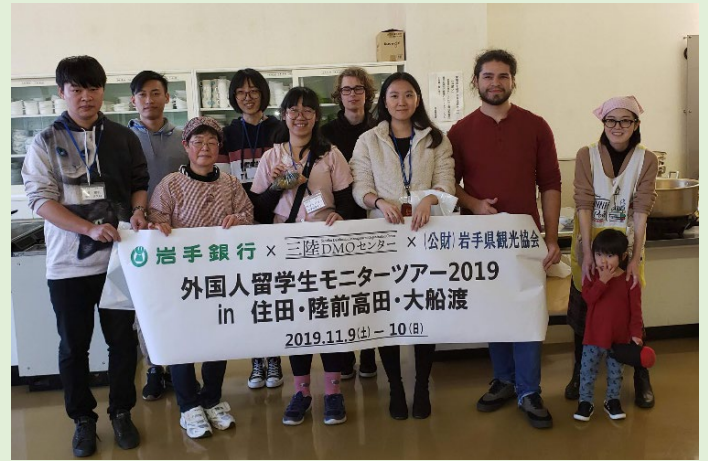


11月

留学生モニターツアー実施

三陸DMOセンターと岩手銀行、岩手県観光協会が協働で県内大学の留学生を対象に、気仙地域の魅力発見につなげるためのモニターツアーを実施し、同センター配置の隊員とともに住田町観光協会が活動する元応援隊が現地での受け入れを支援した。

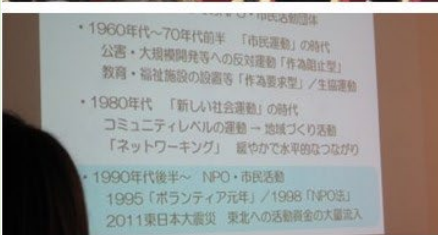
- 11月16日、台風19号で延期になっていた「ジオのカーニバル」が宮古市浄土ヶ浜で開催され現地運営を支援。
- 11月23日、青森県階上町主催の観光ガイド養成講座で隊員(久慈事務所)が講師を務めた。
- 11月26日、久慈市と洋野町の地域おこし協力隊情報交換会に隊員(久慈事務所)が参加。



とうほくNPOフォーラム in 陸前高田 2019 に参加(主催:東北NPOフォーラム in2019 実行委員会)

11月27日、陸前高田市コミュニティホールを会場に、東日本大震災から間もなく9年目を迎える今、NPO、市民、企業、行政など地域の多様な担い手が“復興の先を見据えて何をするべきか”をテーマに開催。神奈川県小田原市長の加藤憲一氏が「持続可能な地域の仕組みとは」と題し講演し、陸前高田市長等とのトークセッションの後、参加者が4つの分科会に分かれ、それぞれの活動紹介や提言、意見交換を行った。

(県の復興支援員は、いわて復興応援隊、いわて三陸復興のかけ橋推進協議会の8名が参加)



12月

三陸鉄道応援企画がスタート(12月2日)

台風19号による被害で一部路線が不通になっている三陸鉄道の利用促進と観光客のリピーター確保につなげる目的で、三陸鉄道、宮古観光文化交流協会、三陸鉄道強化促進協議会のメンバーが宮古駅で三陸鉄道応援企画キャンペーンをスタートさせ、応援隊もメンバーとして参加。

三陸鉄道 FM ラジオ番組を企画・制作・発信

三陸鉄道配置の隊員が提案し、企画制作まで手掛けるエフエム岩手番組内企画「笑顔をつなぐずっと・・・三陸鉄道」は、2019年4月から毎月放送され、2023年10月27日の最終回まで三陸鉄道の情報発信に貢献した。



宮古の師走「宮古市魚菜市场」を紹介

岩手の正月に欠かせない「荒巻鮭」やイクラやナメタガレイ、真鱈など旬の海産物を求める買い物客や観光客で賑わう師走の宮古市魚菜市场の様子を取材し、SNSで紹介。

さんりく駅-1グルメの取材・編集・配架を支援

三陸鉄道沿線の飲食店を紹介するローカルグルメ冊子「駅-1グルメ」の第15号が12月に発行され、同紙発行委員会のメンバーでもある応援隊がSNSで紹介。駅-1グルメは、三陸沿岸の企業、団体、県広域振興局の応援のもと、同発行委員会の会員が取材・撮影を行い、無料配布している。



1月

岩手木炭を紹介

生産量日本一を誇る「岩手の木炭」について、実家で今も活躍している火鉢の利便性、エネルギー効率性についてSNSで紹介。

岩手木炭 岩手県には木炭の原料となるナラが豊富にあり、県北部で生産している木炭は、全国生産量の約3割を占め、全国シェア1位を誇っている。(2021年のデータ)

2020年1月16日、国内で初めて
新型コロナウイルスの感染確認

岩手わかすフェス 2020に参加(1月18日)

東京で岩手に出会うをコンセプトに開催され5回目となる「岩手わかすフェス 2020」に、久慈事務所の応援隊2名が参加し、岩手に関係する多様な人たちと出会い、今後の活動に向け交流をはかった。

三陸観光プランナー養成塾 in 田野畑村に参加(1月23日・24日)

三陸沿岸の豊かな自然や食材の恵み、郷土文化等を活かした体験プログラムを、関係者でブラッシュアップし商品化に取り組む実践研修が田野畑村で開催され、サップ船アドベンチャーや塩づくり体験、豆腐作り・早採りワカメの料理体験などのプログラム作りを検証した。



令和元年度地域づくり人材活動事例発表会 (兼令和元年度第2回いわて復興応援隊研修会)

【開催日】2020年1月31日

【会場】盛岡市のマリオス18階(盛岡市地域交流センター)

総務省地域力創造アドバイザーの稲垣文彦さんを講師に迎え「地域づくり・地方創生と地域おこし協力隊の意義」と題し講演いただき、後半は3つのテーマに分かれ分科会形式のプレゼンテーション大会を開催した。

いわて復興応援隊の田高正博さんといわて復興応援隊の寺田英人さんを含め、18人がプレゼンを行った。

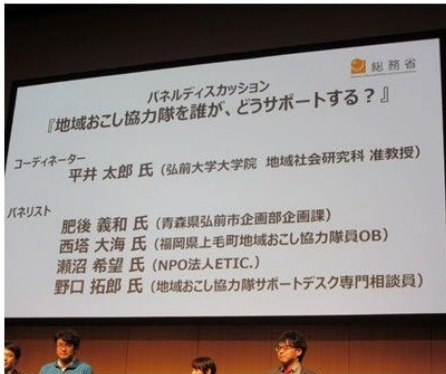


- 岩手県立大学で隊員(三陸ジオパーク推進協議会配置)が講師を務めジオパーク授業を実施(1/7・滝沢市)
- 三陸ジオパーク南部ブロック会議研修会で隊員(久慈事務所)が講師と進行役を務める(1/21)
- 2020世界災害語り継ぎフォーラムに隊員(三陸ジオパーク推進協議会配置)参加(1/23~26・兵庫県神戸市)
- JOIN移住・交流&地域おこしフェア出展支援(1/25~26・東京都)

2月

第6回地域おこし協力隊全国サミットに参加(2月2日・東京ミッドタウン)

東京ミッドタウンで開催された第6回地域おこし協力隊全国サミットに参加。越後妻有アートリエナーレや瀬戸内国際芸術祭などの総合ディレクターを務めた北川フラム氏が「アートによる地域づくりの実践」をテーマに講演し、パネルディスカッションでは、弘前大学の平井太郎氏がコーディネーターを務め「地域おこし協力隊を誰が、どうサポートする？」をテーマに4人のパネリストとともに協力隊等の受入れの課題とあるべき姿について闊達な議論が繰り広げられた。



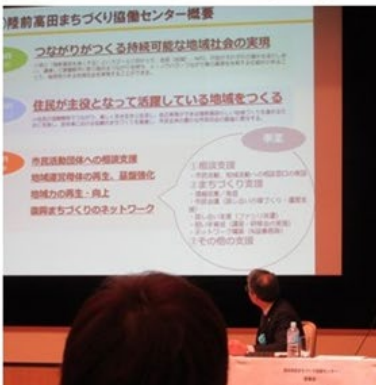
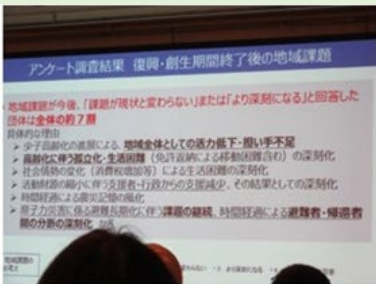
令和元年度「新しい東北」交流会～東北の未来を考えよう～に参加(2月14日・仙台サンプラザ)

復興に携わる被災地内外の多様な主体によるネットワークで、情報共有・連携・協働を進めてきた「新しい東北」官民連携推進協議会が主催する交流会に参加。まもなく10年となる東日本大震災の復興支援のあり方、今後も想定される災害時の支援の取組について考え、議論し交流を深めた。

《基調講演》「復興から地方創生へ」: 澤谷浩介氏(株)日本総合研究所 主席研究員)

《パネルディスカッション》阪神・淡路大震災から熊本地震、首都直下地震の復興支援関係者が登壇

《その他》分科会ごとのワークショップ、講演、事例発表、企業による産業復興事例と顕彰式、活動紹介ブース



三陸ジオパーク検定勉強会を実施(2月19日・宮古市)

浄土ヶ浜ビジターセンターを会場に、三陸ジオパークの普及を目的に毎年開催される検定に向けた勉強会を応援隊(久慈事務所)が企画し、浄土ヶ浜ビジターセンターのスタッフをはじめ、いわて復興応援隊、宮古市・山田町・洋野町の地域おこし協力隊、高校教員、県観光地域づくりコーディネーターなど11名が参加し実施。

三陸ジオパーク検定は、出題範囲が幅広く受験者から事前勉強を希望する声が多く、ジオパークの人材育成も兼ね久慈事務所の支援活動の一環として行われ、三陸ジオパーク認定ガイドの資格を持つ応援隊の田高正博隊員が務めた。



みちのく潮風トレイル「トレイルミーティング in ふだい」に参加(2月22日・普代村)

普代村観光協会主催で開催されたトレイルイベントに参加。トレイル関係者のほか、山岳ガイドや地域住民など90名が参加。タレントのなすび氏もゲストとして参加し、前年の台風19号の被害が残るコースを自然の壮さを感じながら慎重に歩いた。



3月

地域おこし相談会 in 北いわてに参加(3月2日・二戸市シビックセンター)

県北広域振興局主催の地域づくり関係者を対象とした相談会が、二戸市シビックセンターで開催され、応援隊のほか洋野町、野田村、八幡平市、葛巻町、西和賀町、青森県八戸市の地域おこし協力隊や担当職員が参加し、隊員の地域への定着に向けた取組や日頃の活動に関する課題を共有した。

〈講師〉平井太郎氏(弘前大学大学院地域社会研究科准教授)

陸前高田市モビリア仮設住宅の仮設図書館が閉鎖

陸前高田オートキャンプ場「モビリア」内(陸前高田市小友町)の仮設住宅北集会所に2012年4月に開設された「陸前高田コミュニティー図書館」が、2020年3月15日で閉鎖される記事が3月6日の東海新報に掲載された。

2017年8月に当初の設置団体から引き継ぎ運営を行ってきたNPO法人陸前たがだ八起プロジェクトには、2013年4月から応援隊が配置となり、隊員の任期終了後も同法人職員として“最後の入居者まで”との思いで支援を続けていたが、同仮設住宅の撤去が決まり、隊員は、応援隊任期を含め7年間の活動を終え岩手を後にした。(同NPO法人は2020年6月解散)



3月20日の三陸鉄道全線再開に向けて

台風19号の被害により最後の不通区間である三陸鉄道・陸中山田一釜石(28.9キロ)の3月20日運転再開に向け、隊員の活動拠点の一つ県宮古合同庁舎のエントランスホールに三鉄応援ディスプレイが飾られた様子をレポート。

2020年5には、新田老駅が新規開業となり、三陸鉄道の駅数は41となり、盛駅から久慈駅までの路線距離(163.0km)は、日本の第三セクター鉄道では最長距離である。

2020（令和2）年度

県内の主な出来事

- 三陸鉄道リアス線「新田老駅」開業(5月18日)
- 久慈市情報交流センター「YOMUNOSU」オープン(7月5日)
- 災害公営住宅県営南青山アパート(盛岡市)が完成。これにより岩手県における災害公営住宅の整備が完了(12月7日)
- 陸前高田市で実施していた土地区画整備事業による宅地造成工事が終了。これにより岩手県における震災からの復興の宅地造成工事が全て完了(12月31日)
- 岩手県内の応急仮設住宅最後の住人が退去(2021年3月30日)



新型コロナウイルス感染症発生による様々な制限

2020年2月に国内で新型コロナウイルス感染症の発生が確認されたことにより、首都圏等への移動から徐々に県外への移動も制限され、イベントの中止やオンラインに切り替えての開催が増えていった。

県内では、7月29日に同感染症の発生が確認されるまでは、ほぼ通常通りに活動を続けていた応援隊も打合せや研修等の現地参加も難しくなったことから、当協議会事務局や応援隊のコミュニケーションをよりスムーズに図る目的で、メッセージアプリや Web 会議システムの活用を開始した。

前年度から新年度はじめまでに5人の応援隊が活動を終え、8月までに新たに3名の応援隊を迎え11名の体制となり、これまで以上に隊員間の連携が重要となった。



2020年度のいわて復興応援隊配置 (2020年8月18日時点)

配置地域	配置先	隊員氏名
久慈市	いわて復興応援隊 久慈事務所	町田 恵太郎、田高 正博
宮古市	県沿岸広域振興局 宮古地域振興センター	里舘 徹、田川 深青(2020.8.18 着任)
〃	三陸鉄道株式会社	鷲塚 由美子
〃	三陸ジオパーク推進協議会事務局	林 ちはる、阿部 智子(2020.8.18 着任)
〃	県沿岸広域振興局 経営企画部 産業振興室	菊池 啓
盛岡市	いわて定住・交流促進連絡協議会 定住・交流推進部	高橋 美紀
〃	県ふるさと振興部 県北・沿岸振興室	及川 理香子(2020.4.1 着任)
〃	(公財)さんりく基金 DMO 事業部	田村 絵里

4月🌸

応援隊が三陸沿岸の桜前線を SNS で発信

三陸沿岸を北上する桜前線の様子を応援隊が活動地域からSNSで発信し、桜と共に各地の名勝や撮影スポットを紹介。



新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務開始(4月30日)



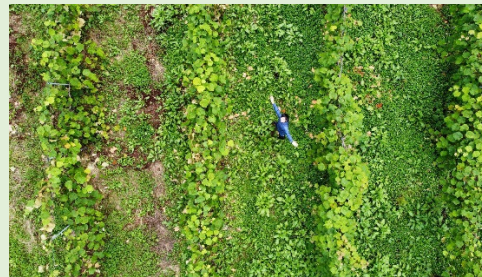
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、応援隊の活動についても4月30日から5月6日まで交代(在宅)勤務となり、隊員の現地活動もこれまで以上大幅に制限される状況が続く。(その後も岩手緊急事態宣言に合わせて、在宅勤務等の対応を行うこととなる)

新型コロナウイルスの感染が収束する日に向けて、応援隊も各地域の情報や魅力を積極的に発信し、web会議システムやオンラインツールをフル活用し関係者との情報共有を図りながら、地域活動を前向きに進める手立てを探り続けた。

5月

いわて復興応援隊久慈事務所の YouTube アカウント開設

応援隊が小型ドローンを使い、三陸ジオパークの絶景、山ぶどう農園全景、沿岸の復興状況を空撮した映像を投稿。動画は、自治体や地域振興関係団体のPR等にも提供。(撮影については、事前に関係機関の許可を得て行っている)



三陸鉄道「新田老駅」開業をPR

5月18日の三陸鉄道の新駅「新田老駅」の開業セレモニーの様子や地域住民へのインタビューを、5月25日エフエム岩手「夕方ラジオ」の三陸鉄道情報コーナーで放送。

当日のインタビューは、三陸鉄道配置の応援隊が担当し、開業した新駅については、他の応援隊が現地取材し、応援隊や配置先のSNSで紹介した。



6月

震災メモリアルパーク中の浜をレポート



2014年、三陸復興国立公園内で初めて“震災遺構を活用した公園”として開園した「震災メモリアルパーク中の浜」をレポート。2019年10月に発生した令和元年東日本台風による土砂災害の跡も残る画像は、自然災害の威力をあらためて伝えた。

・三陸ジオパークのジオサイトの一つで、みちのく潮風トレイルのコースにも組み込まれている震災遺構
 ・現在、公園内の令和元年東日本台風土砂災害からの復旧は完了している



いわて復興応援隊 2020年度公募を開始

2020年度、三陸沿岸の4つの拠点で活動する応援隊を募集。これがいわて復興応援隊の最後の募集となった。

7月

「燕島とウミネコの乱舞」動画配信

久慈事務所の応援隊が約3万羽ものウミネコが繁殖する国の天然記念物「燕島」の様子を動画で配信。ウミネコの子育て真っ最中で燕島全体が縄張りをめぐる異様な緊張感につつまれる様子を発信するとともに、ウミネコの繁殖地であった燕島を人間が後から開発した過去から、保護活動が盛んになった現在までの経緯を伝えた。



野田村地域おこし協力隊との連携

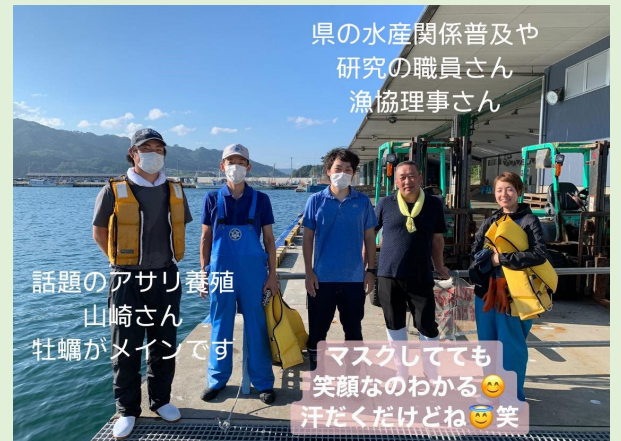
応援隊と野田村地域おこし協力隊が、地域の特産である山ぶどうの実をはじめツルに至るまでの徹底した活用について検討を重ねた。その記録を野田村観光協会が動画で紹介。山ぶどう以外にも交流施設の活用や交流イベントの企画運営など、近県も含めた北部の協力隊と応援隊との連携交流は盛んに行われた。



8月

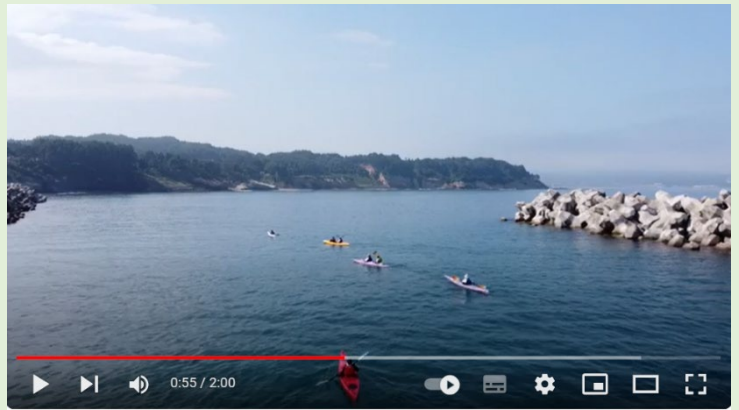
地域の魅力をより積極的に発信

8月に2名の応援隊が加わり、宮古地域を中心に、三陸ジオパークに関することや水産をはじめ地域産業に関わる情報発信がより積極的に行われた。コロナ禍の行動制限があるものの、応援隊は自身で取材を行い、取材対象者との対話からリアルな情報を県内外に発信した。



地域資源を活用したトライアルツアーにチャレンジ

三陸DMOセンター主催「野田村シーカヤック体験」の実施支援と併せて、当日の様子をドローンで空撮し北三陸の絶景を動画で発信した。



シーカヤック体験 / 岩手県野田村

※撮影については、事前に関係機関の許可を得て行っている

新・三陸防災復興プロジェクト web サイトをPR



2019年のイベントサイトから一新した同プロジェクトのwebサイトを応援隊が主となり担当。他の応援隊との連携により、三陸の情報発信に積極的に取り組んでいく。

9月

2020年度第1回いわて復興応援隊研修会開催(9月15日)

新しい応援隊3名を迎えて2020年度1回目の応援隊研修を盛岡市のエスポワールいわてで開催。

前半は、応援隊久慈事務所の田高正博隊員が講師となり「ジオの視点から三陸を学ぶ」をテーマに三陸の成り立ちからジオパークの基本を学んだ。

後半は、日頃の活動から疑問に感じること、知りたいこと、活動への提案などを出し合い意見交換を行い、隊員間の連携のやり方などを話し合った。(新型コロナウイルス感染症予防のため、研修会終了後の懇親会などの交流会は行わず日帰りとなった。)



いわて復興応援隊現地ミーティング実施(9月25日)

「応援隊の連携」をテーマに、宮古市のイーストピアみやこで応援隊現地ミーティングを実施。配置先や活動内容が異なる応援隊がそれぞれどのような活動をし、日頃どんなことを考え悩み業務にあたっているのかを共有し、隊員間でどんな連携ができるかを話し合う場とし、その後も継続。

これ以降、応援隊連携を通して、それぞれの事業支援やイベント企画などが進められるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、しばらくは開催方法の変更や中止が余儀なくされる。しかし、様々な困難を乗り越え、互いに議論を重ね、関係者を巻き込みながら進めた連携活動は、それぞれの配置先事業はもとより、応援隊の活動成果に結びついていく。



三陸ジオパーク推進を支援（2020年9月から12月の活動事例）

三陸ジオパークの推進に係る支援は、2014年5月に三陸ジオパーク推進協議会事務局に最初に応援隊を配置してから、2020年8月時点まで、10人の応援隊を配置し支援してきた。2019年以降、県の広域振興局等に配置となった応援隊も支援体制に加わり、2023年3月まで、多くの応援隊が関わることとなる。

三陸ジオパーク定期通信「さんりくジオだより」への寄稿

北部（久慈）、中部（宮古）、南部（釜石）を活動拠点とする応援隊が三陸ジオパーク現地推進員として、三陸ジオパークの魅力伝えるコーナーを担当し、交代で寄稿。2020年10月発行のさんりくジオだより第63号では、久慈事務所の応援隊が岩手県北部の普代村「黒崎」を紹介している。

宮古市三陸ジオパークガイドブック作成支援

宮古市三陸ジオパーク推進協議会が発行するガイドブック作成を応援隊久慈事務所が支援。その活動の一つとして9月28日に宮古市重茂地区ドケ崎灯台周辺の現地調査には、久慈・宮古で活動する応援隊3人が参加。東日本大震災津波の痕跡がまだ残る本州東端の壮大な自然の造形を応援隊Facebookでも紹介し、寄せられたコメントには専門家として解りやすく楽しく解説をしている。



三陸ジオパーク認定ガイド養成講座で応援隊が講師を務める

10月7日に開催されたジオパーク認定ガイド養成を目的とした現地見学ツアー「ジオ発見！見て、触れて、食べて、三陸鉄道でめぐる旅！」で、三陸鉄道車内での解説を三陸ジオパーク認定ガイドでもある応援隊が担当。

「ジオのカーニバル in 田老」の開催支援

10月31日、道の駅たろうを主会場に開催されたイベントで、宮古市地域おこし協力隊が企画した「タロウィン」を支援。応援隊任期終了後も協力関係は続いており、2023年度も継続開催となった。

「ヨムノスでみるのす！三陸ジオパーク」を開催

11月15日、久慈市駅前の交流施設「YOMUNOSU」で、三陸ジオパーク内の各地域を360度見られるVRゴーグルでの映像体験や、ヨムノス屋上で周辺の景観を解説し、ジオパークに親しんでもらうことを目的に同施設と連携して開催。

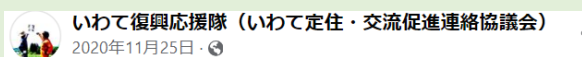
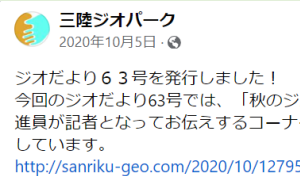
ジオトレイルツアー「ひろの海と人の歴史ウォーク」

洋野町で「海と人」をテーマにしたウォーキングイベント「ひろの海と人の歴史ウォーク（主催：岩手県北広域振興局）」を11月28日開催に向け、関係団体とともに企画、運営準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大により開催は中止となった。「みちのく潮風トレイル」を歩きながら「三陸ジオパーク」や洋野の歴史を学び、商店街の人たちとふれあい、街の魅力を発見してもらうものだったが、この連携実績がその後の北三陸の連携に結びついていく。

三陸ジオパーク認定ガイド筆記試験対策勉強会で講師として協力

12月15日宮古市三陸ジオパーク推進協議会が主催するガイド勉強会で、三陸ジオパーク認定ガイドでもある応援隊が講師を務め、三陸ジオパーク認定ガイドを目指す人たちに支援。

いわて復興応援隊で三陸ジオパーク認定ガイド有資格者として活躍しているのは、2023年3月時点で3名。



【中止のお知らせ】
11月28日（土）に開催を予定しておりました「ひろの海と人の歴史ウォーク」は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、残念ながら中止となりました。

岩手をはじめ全国的に大変な状況ですが、地域の皆さん、関係者のさんと準備を進めてきた企画を、またの機会に活かし、多くの皆様岩手に来て頂けるプログラムにつなげて行きたいと思います。

基本的な感染予防をしっかりと、皆さん頑張りましょう！

いわて復興応援隊久慈事務所

#頑張りろ #岩手県 #洋野町



10～12月

岩手県立盛岡第三高等学校総合学習を取材(10月13日)

県立第三高等学校一年生の総合学習プログラム「三陸総合探求」に応援隊が同行取材。7つあるコースの内、大槌町コースの様子を応援隊 Facebook で紹介。

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターや大槌ジビエソーシャルプロジェクトで、SDGsの取組を学ぶ高校生 40 人の様子を伝えた。同校の三陸実習への同行は、三陸DMOセンターからの協力依頼により、同センター配置の隊員ほか沿岸配置の応援隊 4 名が参加し、同センター運営の「さんりく旅するべ」にレポートを寄稿している。



三陸国際ガストロミー会議 2020 に参加(10月26日・27日)

10月の2日間、大船渡市民文化会館を主会場に、三陸の「食」についての魅力を再発見する目的で「三陸国際ガストロミー会議 2020」が開催され応援隊 4 名も参加し、オープニングの様子を伝えた。



フォトゲイニング三陸シリーズ～白亜の灯台で愛を叫ぶ 青の国ふだい編～に参加(11月8日・普代村)

前年度「三陸防災復興プロジェクト2019」で県内初開催となったフォトゲイニングを受け継ぐ形で、11月8日に県北広域振興局主催で開催。

当時は参加が叶わなかった応援隊が、初めて、配置先職員と共に参加し、フォトゲの楽しさを伝えた。

※2021年2月21日に宮古市で開催予定の同イベントは、新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となった。



三陸ぐるっと食堂in陸前高田に参加(11月14日・15日)

11月の両日、陸前高田市のアバッセたかた前駐車場で開催された「三陸ぐるっと食堂 in 陸前高田」を現地からリアルタイムで伝えた。

宮古の真鱈グルメフェア開催をPR

2020年12月3日から年明け1月24日まで開催される宮古の真鱈グルメフェアをSNSでPR。

県宮古地域振興センター配置の応援隊が、同宮古水産振興センターの事業を支援しているもので、参加店との調整や広報等の企画から運営まで関わっており、同イベントの公式 SNS は応援隊が投稿を担当

いわて水産女子コミュニティ立上げ

自身も漁家である応援隊が、岩手県内の漁家女性を対象に、水産について学んだり、互いの意見交換を行う“女性をつなぐコミュニティを提供する場”の立ち上げを支援。



1月～3月

沿岸各地の応援隊が年明けの三陸の様子を発信



野田村役場前で行われた小正月行事「どんと焼き」



宮古市田老町漁協魚市場の衛星管理検査に特別に同行



洋野町種市海浜公園の窓岩(まどいわ)の氷の芸術



久慈市の小袖海岸とつりがね洞を空撮した動画で伝えた

東日本大震災津波の発災から10年となる日を迎えて

当時、久慈市で津波を経験した応援隊が当日のことを Facebook で伝えた。
「異常に長時間続く大揺れの中、直感的に大津波が来ると感じました。そのうち自衛隊の哨戒機が見たこともない超低空で自分の真上を飛行していくのを見て津波の観測をしているなと思い、いよいよここは危ないなと思いました。どこかからバーンという爆発音が聞こえて、地震でプロパンガスのボンベが外れて引火したのかと思いましたが、後に津波の海鳴りだったと知りました。」



津波により流されてきた瓦礫と JR 八戸線久慈川鉄橋



災害派遣の自衛隊

- 2021年3月11日、岩手県・陸前高田市合同追悼式が、高田松原津波復興祈念公園公営追悼・記念施設と陸前高田市民会館「奇跡の一本松ホール」の2会場で執り行われた。

2021（令和3）年度



県内の主な出来事

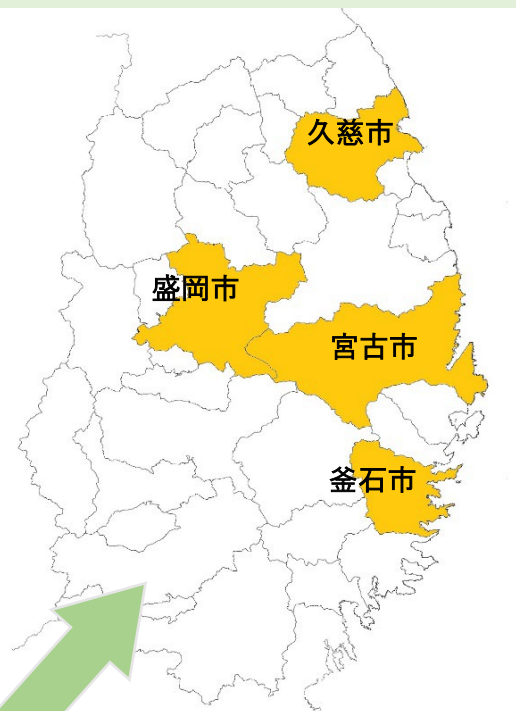
- 陸前高田市の高田松原海水浴場の砂浜を一般開放(4/1)
- 田野畑村の「道の駅たのはた」グランドオープン(4/22)
- 陸前高田市の震災遺構「旧気仙中学校校舎」と「旧道の駅高田松原タピック45」の一般公開開始(5/1)
- 一戸町の御所野遺跡を含む「北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産登録が決定(7/27)
- 新型コロナウイルス感染症拡大により岩手緊急事態宣言発出(8/12)
- 普代村の「道の駅青の国ふだい」がオープン(9/25)
- ぼうさいこくたい2021が釜石市で開催(11/6、7)

2021 年度、9 名の応援隊でスタート

前年度末に応援隊2名が退任し、2021 年度は応援隊9名の体制となる。

新型コロナウイルス感染拡大を受け、7月9日の岩手警戒宣言につづき、8月12日に岩手緊急事態宣言が発出され、応援隊の活動も原則在宅勤務となり、前年度に引き続き、イベント等の中止や事業企画や運営の変更を余儀なくされる。

全国的に厳しい状況である中「コロナ禍でも出来ることをしよう！」と応援隊同士の連携を密にするため、オンライン会議や定期ミーティングを実施し、コロナ禍明けに向けたイベントや研修等の企画を提案しながら、各地域のPRを積極的に行い、応援隊を通じて地域連携、事業間連携を進めていった。



いわて復興応援隊の配置

- 【久慈市】町田 恵太郎(いわて復興応援隊 久慈事務所)
- 【宮古市】里舘 徹、田川 深青(県沿岸広域振興局 宮古地域振興センター)
阿部 智子(三陸ジオパーク推進協議会事務局)
鷲塚 由美子(三陸鉄道株式会社)
- 【釜石市】菊池 啓(県沿岸広域振興局 経営企画部 産業振興室)
- 【盛岡市】田村 絵里(公益財団法人さんりく基金 DMO 事業部)
及川 理香子(県ふるさと振興部 県北・沿岸振興室)
高橋 美紀(いわて定住・交流促進連絡協議会 定住・交流推進部)



コロナ禍後を見据え、岩手県沿岸各地の魅力を積極的に発信

4月～6月

一般開放された高田松原海岸を動画撮影

4月1日に一般開放となった陸前高田市の高田松原海岸で撮影した動画を応援隊SNSにアップ



「マリンローズパーク野田玉川」リニューアルの紹介

リニューアルオープンした三陸ジオパークのジオサイト登録施設と地下アイドル「マンガンボーイズ」をPR



田野畑村の新しい道の駅「思惟の風」を紹介

グランドオープン前の「道の駅たのはた・思惟の風」で館内の様子をSNSで紹介。

宮古市「臼木山」の桜を紹介

宮古市浄土ヶ浜近く、約800本の桜が咲き競う公園「臼木山」を紹介。

新緑の早坂高原の自然を紹介

三陸の美味しいを応援する「駅-1グルメ」の取材と併せて、岩泉町の早坂高原ビジターセンター周辺の春を紹介



4月にオープンした「おおつち海の勉強室」を紹介

東日本大震災津波で被災した旧センター跡地(大槌町赤浜)に開設された東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの展示施設「おおつち海の勉強室」。地域と研究者の交流を深め、三陸の海の昔と今を見つめ陸の未来を考えることを目的としている。



地域おこし協力隊に「応急仮設住宅」を案内

洋野町地域おこし協力隊の野田村視察を、野田村で5年活動した経験を持つ応援隊がアテンド。岩手県第2分類の伝承施設である野田村の旧安家地区応急仮設住宅や、野田村の特産品「のだ塩」や「荒海ホタテ」の生産現場などを紹介。



宮古湾の新造船お披露目を取材

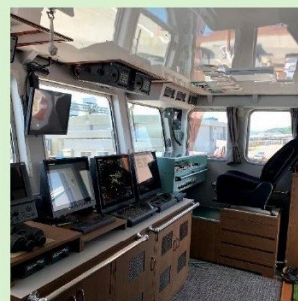
遠洋マグロ漁船竣工のお披露目入港が宮古市で行われ、宮古地域振興センター配置の応援隊が取材。特別な許可を得て、船内も見学した様子を紹介した。

取材した応援隊のコメント

「岩手県とマグロって、なじみがないように感じますが、実は岩手県には 15 隻の遠洋マグロ漁船があるんです。マグロ漁船が停泊する漁業基地や水揚げ漁港が県外であることが多いため、あまり知られていないようです。」

三陸ジオパーク北部エリア現地視察(青森県八戸市)

三陸ジオパーク認定ガイドの研修会企画を目的に、北部エリアの視察と活躍中の認定ガイドの活動取材(動画撮影)を実施。(久慈、宮古、釜石で活動する応援隊 4 名が参加)



野田村『シバザクラいっぱいプロジェクト 2021』に参加

6月27日、三陸防災復興プロジェクト2019で初めて実施され、三陸鉄道に引き継がれて3回目となる植栽イベントを体験取材。

野田村十府ヶ浦公園の遊歩道沿い 380mに約 3,000 株のシバザクラの苗を多くの参加者と一緒に植栽した。

参加した応援隊のコメント

「シバザクラの見頃は GW あたりだそうです。来年のその時期に野田村を訪れる方は、村民の手で作られている車窓からの景色も、是非楽しんでもらいたいと思います。」

洋野町「ひろの歩き～洋野町の美味しいウニの秘密を知ろう！」開催を支援

地域の特産品を学びながら、みちのく潮風トレイルを歩くイベント「ひろの歩き(洋野町観光協会主催)」が開催され、応援隊が企画から当日の開催を支援。また、三陸ジオパーク認定ガイドの元応援隊がガイドを担当し、同町の特産のウニをテーマに特産品となった理由、本州一の水揚げ量をほこる地域の取組について、楽しくわかりやすい話を展開した。



7月～9月

明日の浜人発掘事業「宮古水産高校体験入学」の実施を支援

7月29日に県宮古水産振興センターの「明日の浜人発掘事業」で実施された「県立宮古水産高校体験入学」の、準備から当日の運営を応援隊が支援。体験入学実施前に、岩手県内陸の中学校2校(雫石町、滝沢市)で行われた出前授業にも同行し、中学生たちに参加を呼び掛けるなどコミュニケーションをはかりながらの支援を行った。

同事業には、宮古市配置の応援隊と盛岡市配置の応援隊が連携し、沿岸と内陸を繋ぐ役割も担っている。

岩手県公式 Facebook「いわてのわ」でも「いわて復興応援隊連携活動」として紹介された。



みちのく潮風トレイルのルートを紹介

新型コロナウイルス感染症拡大により「岩手緊急事態宣言」が8月12日に発出される中、三陸の美しい景観を伝えようと、応援隊が洋野町のみちのく潮風トレイルのルートにそって画像を配信。

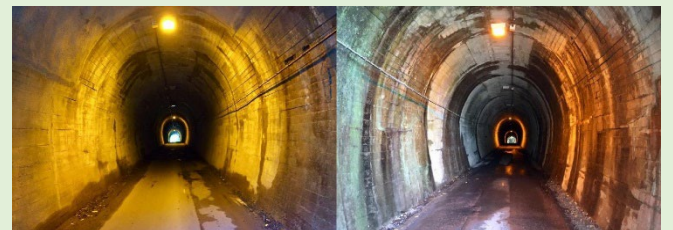
野田村では、復興工事が終了した十府ヶ浦海岸の防潮堤を上空からドローンで撮影した画像で紹介。



昭和の時代に造られた釜石市内の4つの隧道(ずいどう)を紹介

釜石市に昭和2年から40年代に造られた半島や小さな集落を結ぶ古い隧道を造られた経緯から現在の様子について、現地でも撮影した画像とともに紹介。

- ① 鳥ヶ澤隧道:1927年竣工、296メートル、県道242号
- ② 桑の浜隧道:1961年竣工、156メートル、箱崎半島
- ③ 仮宿隧道:1970年竣工、230メートル、箱崎半島
- ④ 佐須トンネル:1972年竣工、200メートル、尾崎半島



いわて三陸復興のかけ橋・マッチング事業の事例紹介

県立大学サークル「復興 girls&boys」と「みちのくココ・コーラボトリング」のコラボ企画“三陸地域の特産品を使用したオリジナルモクテル～pono lino～”が商品化され、盛岡市内の飲食店で提供開始となり、支援の事業概要から商品開発の様子を紹介。

※ モクテル＝ノンアルコールカクテル

10月～12月

岩手県立岩泉高等学校「郷土芸能同好会」を支援

県宮古地域振興センター配置の応援隊が、中野七頭舞の指導者かつ応援隊支援活動の一環として、同校を支援。10月に北上市で開催された「第44回岩手県高等総合文化祭郷土芸能発表会」において、同校が優秀賞一席に選ばれ、翌年の全国大会への出場が決まった。東京都出身の隊員が岩手の郷土芸能に魅せられ、岩手に移住した経緯と高校生達の活躍を伝えた。

隊員のコメント(Facebook から一部抜粋)

「芸能を通して全国・世界の人達と交流できる術を持てるというのはとても素敵なことだと思っています。この学生時代の経験が、生徒たちの後の人生を豊かにできるよう、引き続き一緒にがんばります！そして、中野七頭舞が、子供たちが岩泉町に残るきっかけになれば一番ですが、もしこの地域を離れたとしても、戻って来たら踊れる場所を作って行きたいと思っています」



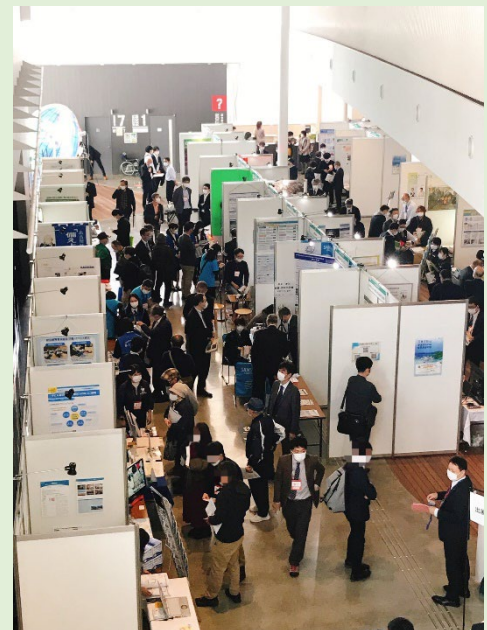
岩手県立盛岡第三高等学校「総合探求授業」三陸沿岸実施を支援

10月に実施した同校1年生の総合探求授業(現地開催)を、三陸DMOセンターを通して応援隊等が全面的に支援。岩泉町、宮古市、大槌町、釜石市の各コースの現地サポートを行い、同センターが運営するwebサイト「さんりく旅するべ!」には、各コースを支援した応援隊がそれぞれ当日のレポートを提供した。



「ぼうさいこくたい 2021」現場からの情報発信

11月6日、7日と釜石市で開催された第6回目の防災推進国民大会(通称:ぼうさいこくたい)で、岩手県主催の「いわて・かまいし防災復興フェスタ」の開催を支援。同大会は現地参加とオンラインのハイブリット形式で開催され、東日本大震災から10年を振り返り、あらためて今後の復興と防災、震災の伝承を考える機会となった。



ぼうさいこくたい 2021の様子は、応援隊が担当する三陸防災復興プロジェクトのSNSでリアルタイムで伝えており、展示ブースや各セッション、2日目に陸前高田市で実施された防災復興エクスカージョンの様子を発信した。

また、翌年神戸で開催された「ぼうさいこくたい 2022」にも応援隊が参加し、同プロジェクトのSNSでレポートしている。

陸前高田市「3.11 仮設住宅体験館」を視察

東日本大震災津波被害により、陸前高田市立旧米崎中学校に設置された応急仮設住宅を活用した研修施設をオープン後まもなくの11月初旬に応援隊が視察。施設担当者と語り部によるガイドプラン(有料)を応援隊3人が体験し、三陸ジオパークや震災学習などとの連携の可能性などについて検討することとした。(同日は、大船渡市内で翌年実施予定の三陸ジオパークオンラインイベントの関係者との打合せを行った。)



みちのく潮風トレイルブロックフォーラム in 洋野(NPO 法人みちのくトレイルクラブ主催)の運営支援

12月11日に、洋野町で実施されたみちのく潮風トレイルブロックフォーラムの運営を応援隊がサポート。約40人の参加者を迎え、廃校となった旧宿戸中学校校舎を活用した交流施設「ヒロノット」での講演や同町のトレイル本線を歩くツアー、宿戸大浜では「洋野エモーション」の旗振りを参加者全員で体験するなど、洋野の魅力を伝えた。



NPO 法人みちのくトレイルクラブ
当時、元いわて復興応援隊が同法人の総括本部長としてみちのく潮風トレイルの推進に取組んでいた。

洋野エモーション
元いわて復興応援隊が洋野町で地域住民等と始めた JR 八戸線「東北エモーション」への歓迎の旗振りイベント

イーハトーブ写真展～JR 釜石線・三陸鉄道沿線編～の開催支援

JR 釜石線と三陸鉄道沿線の地域の魅力を広域で発信する目的で、2021年12月17日から翌年1月10日までイオンタウン釜石で開催された写真展。応援隊が県広域沿岸振興局等関係機関とともに関係者への協力依頼や写真データの収集など全面的に支援した。

主催：イオンタウン釜石
展示コーナー：三陸鉄道編、JR 釜石線編、SL 銀河編、三陸鉄道沿線地域編、宮沢賢治と三陸の旅編、釜石大観音仲見世編、大槌湾からのメッセージ編



三陸観光プランナー養成塾 in 宮城に参加

三陸鉄道全線開通を控え、今後連携を強化していく必要がある宮城県の観光関連事業者を訪問し、学びと交流を深めることを目的に実施されたフィールドワークに応援隊3名が参加。

主催：三陸 DMO センター
12月9日、10日の2日間、岩沼市、名取市、東松島市、石巻市、気仙沼市で実施。



1月～3月

三陸沿岸の大寒の様子を伝える

寒さが最も厳しくと言われる大寒の1月20日、三陸沿岸にも雪が積もった。雪の中宮古駅を出発する三陸鉄道(動画)と新雪に覆われた釜石市鷗住居復興スタジアムの様子を伝えた。

久慈市小袖海岸・男岩のてっぺんについて紹介

NHK 朝ドラ「あまちゃん」の舞台となった久慈市小袖海岸の夫婦岩。片割れの男岩のてっぺんに祀られている赤磯明神をドローンの空撮画像とパワースポットといわれる理由を紹介。



三陸ジオパークオンラインセミナーの連携企画及び運営

応援隊が中心となり、三陸ジオパークを考古・歴史遺産としての観点から、縄文をテーマにジオパークの魅力を探るセミナーをメイン会場の浄土ヶ浜ビジターセンター(宮古市)、是川縄文館(青森県八戸市)、大船渡市立博物館と3会場を Web 会議システムでつなぎ開催。同セミナーの企画から関係機関との調整、広報(周知及びチラシ作成)、当日の運営まで、6人の応援隊が全面的に関わり、約70名の参加者を集め、メイン会場での総合司会は、ラジオパーソナリティの経験がある応援隊(三陸鉄道配置)が務めた。

応援隊久慈事務所には、近隣の認定ガイドや地域おこし協力隊など関係者が集まり、一緒に聴講した。また、当日の様子は、岩手日報(2月18日掲載)でも紹介され、応援隊がコメントしている。

《開催名》ジオサイトから見る世界遺産「是川遺跡」と「崎山貝塚」・「気仙縄文遺跡」オンラインセミナー

《開催日》2022年2月16日

《主催》三陸ジオパーク北部ブロック会議・同中部ブロック会議・同南部ブロック会議



防災観光アドベンチャーゲームに参加(大船渡市)

3月13日、県事業「防災を学習する場づくりプロジェクト」の現地視察プログラムに応援隊3名がモニター参加。キャッセン大船渡の周辺を回りながらスマホを利用し津波被害の疑似体験から防災を学ぶ取組み。ゲーム上では、3分の遅れで津波に飲み込まれた応援隊もあり、一瞬の判断が生死を分けると言われる災害の本質を学んだ。

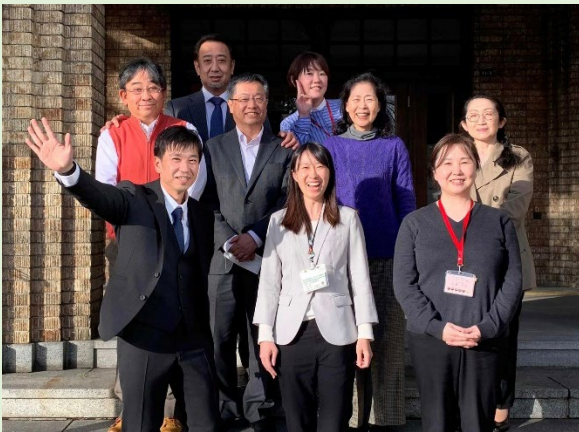
キャッセン大船渡 JR 大船渡駅の近く、飲食店や御菓子屋、雑貨屋などを中心とした約30店舗が集まった復興商業施設として、2017年4月29日にオープンした。



2022（令和4）年度

県内の主な出来事

- 1月23日発出の岩手緊急事態宣言解除(5/30)
- 宮古市の新しい遊覧船「宮古うみねこ丸」が運航開始(7/18)
- 東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」が来場者60万人達成(9/12)
- 陸前高田市立博物館11年7カ月ぶりに開館(11/5)
- 仕事と学び複合施設「イコウェルスみた」完成(2023/1/6)
- 東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式が執り行われ、県と被災自治体との合同追悼式はこれが最後となった。(3/11)



いわて復興応援隊の最終年度を迎える

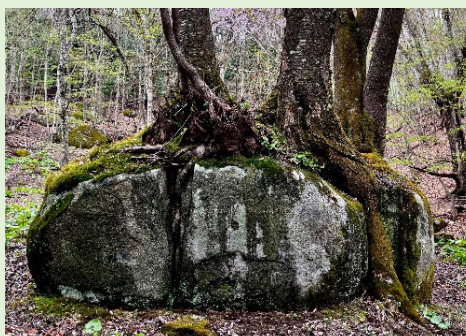
前年11月に県から応援隊及び専門支援員に対し、2022年度が応援隊活動の最終年度となることが告げられた。突然の知らせで隊員には動揺があったが、2012年10月から“いわて復興応援隊”が10年目となる年でもあり、在任中の応援隊9人は、それぞれが活動の集大成として最後の1年に向き合った。

応援隊最終年度スタート！

4月・5月

三陸沿岸各地から、隊員が春を発信

2022年1月23日に発出されていた「岩手緊急事態宣言」が5月30日に解除され、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は徐々に収束する様子が見られる中、応援隊が一齐に三陸の春をSNSで発信した。



岩手県指定史跡「久慈城跡」の紹介

戦国時代、久慈地域を領地とした武士一族「久慈氏」の居城跡が、2022年4月8日に岩手県指定史跡に登録された。城跡近くにある東北屈指の慈光寺の杉並木も紹介しながら久慈地域の歴史を紹介。

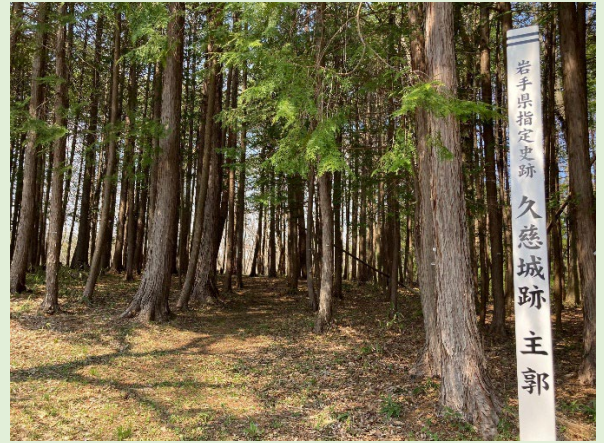
普代水門(ふだいすいもん)と企業研修をレポ

普代村の「普代水門」で実施された県外企業の被災地研修会の様子と案内役の三陸ジオパーク認定ガイドの長坂さんを紹介。

景観整備された陸中黒崎灯台の絶景

2022年3月、環境省との協議の上、普代村で黒崎灯台周辺の樹木伐採が行われ、素晴らしい景観が見えるようになった。

普代村では、同年度9月、応援隊現地研修会を実施。



6月

大船渡市地域おこし協力隊の活動を体験取材

三陸町越喜来泊地区で養殖漁業に取り組む大船渡市地域おこし協力隊の岡田真由美さんを訪ね、ホタテのかご替え作業を体験取材。大きさ3cm程の稚貝をかごに振り分ける作業をしながらインタビュー。

大船渡市地域おこし協力隊の岡田さんについては、岩手県のwebサイト(令和3年度地域おこし協力隊活動紹介)でも紹介している。⇒



宮古市三陸ジオパークガイドブック GEO 入門編が完成(宮古市三陸ジオパーク推進協議会発行)

2021年3月まで、いわて復興応援隊久慈事務所で三陸ジオパークの推進や地域をつなぐ活動を支援していた応援隊が在任中から編集に携わっていた宮古市三陸ジオパークガイドブックが完成。

宮古市シティプロモーション動画公開

岩手県宮古市で活躍する映像クリエイター3人が作った同市シティプロモーション動画が公開された。3つの動画の内、井田裕基さんが制作した“テーマ「人」”は、宮古地域振興センター配置の応援隊が家族で出演し、漁家の暮らしと地元の郷土芸能を守り育てる人々を紹介する内容となっている。(YouTube 宮古市公式チャンネルで公開中)

7月



ウミネコ繁殖地と植生管理について

三陸ジオパークの北部のサポートを担当する応援隊が、国の天然記念物に指定されている「蕪島ウミネコ繁殖地(青森県八戸市)」の植生管理についてレポートをSNSで発信したほか、三陸ジオパーク通信「さんりくジオだより第83号」に寄稿している。

蕪島全体に繁茂する植物“ナタネ”がウミネコの繁殖の妨げとなることから、定期的なく草刈りやナタネ株の除去等の保護活動を行っている。鮮やかな黄色のナタネは、戦後、観光目的で植えられたもので適正な保全活動の重要性を伝えた。

さんりくジオだより(三陸ジオパーク推進協議会)⇒



明日の浜人(はまひと)発掘事業を取材(7月13日・滝沢市)

宮古水産振興センターと宮古水産高等学校が連携し、海との関わりが少ない内陸の生徒を対象に水産業の魅力を知ってもらう機会を創出する取組である明日の浜人発掘事業。前年と同様、滝沢南中学校3年生(約240人)に対し「いわての漁業・水産業について、県宮古水産振興センターと宮古水産高等学校がプレゼンを行ったほか本職の漁師さんも講演し、中学生に水産業の魅力をPRした。同事業については、宮古と盛岡それぞれで活動する応援隊が継続支援を行った。



根浜海岸海開きで三陸ジオパークをPR(7月18日・釜石市)

開催前の大雨により、16日(土)・17日(日)の根浜海岸の海開きイベントは中止となったが、ようやく晴れ間が覗いた18日(月・祝日)に規模を縮小し三陸ジオパークPRブースを設置。体験ブースで、ジオサイトのVRやアンモナイトレプリカづくりを体験を子供たちと一緒に楽しんだ。



宮古市の藤原埠頭に飛鳥IIが寄港(7月26日)

クルーズ客船「飛鳥II」が宮古市の藤原埠頭に寄港し、市民や観光関係者が行う歓迎のセレモニーに隊員も参加。

下船した観光客に「北山崎や震災の様子を見に行きたい」と声をかけられ、おおよその移動時間や途中の見どころなどを伝え会話を楽しんだ。



震災・防災学習現地研修会に参加(7月下旬・陸前高田市)

東日本大震災津波伝承館と県立野外活動センターの共催で校外学習や修学旅行での利用の一層の促進と学校教育と連携した震災伝承、防災文化の醸成を図ることを目的に、復興教育担当教員等を対象にした研修会「震災・防災学習現地研修会」に応援隊が参加。その様子を応援隊配置先が運営する「さんりく旅するべ」に寄稿している。

(公財)さんりく基金 DMO 事業部運営 web サイト ⇒

※「さんりく旅するべ」には、多くの応援隊が協力し、沿岸各地域の紹介やイベントに関する多くの寄稿を行っている。



8月

三陸ジオパークセミナー開催を支援(8月25日・青森県八戸市)

世界ジオパークの基礎や現状、国内の取組を学び全国のジオパーク関係者との交流をはかる目的で「三陸ジオパークセミナー」が八戸プラザホテルを会場に開催され、応援隊が現地の運営を支援した。鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員の 大野希一氏が「ユネスコ世界ジオパークが目指すもの」と題して講演したほか、活動報告として三陸沿岸各地域の三陸ジオパーク認定ガイドが活動発表を行った。

翌26日はエクスカッション・ジオツアーが2コース開催され、参加者に三陸ジオパークの魅力をアピールした。



9月

令和4年度第1回いわて復興応援隊研修(9月7日～8日・田野畑村及び普代村)

応援隊現地研修会を沿岸の田野畑村及び普代村で実施。

東日本大震災から11年が経過する沿岸地域において、災害への取り組みや三陸ジオパークなど地域資源の魅力と活用を学ぶ研修を応援隊と一緒に企画し、1日目は、三陸ジオパーク認定ガイドの赤坂広太さん(NPO 法人体験村・田野畑ネットワーク)、長坂孝志さん(北三陸認定ジオガイドクラブ)のお二人にそれぞれ田野畑村と普代村のガイドをお願いした。

《前半》

赤坂広太さんのガイドで、三陸鉄道田野畑駅をスタートし、平井賀漁港、明戸海岸防潮堤、机浜番屋群を回り、3.11の被害状況と三陸ジオパークの魅力について学んだ。

1日目

《後半》

田野畑村から普代村に移動し、長坂孝志さんのガイドで、普代水門、普代村緊急避難路、太田名部防潮堤、黒崎漁港を回りながら、明治三陸津波(1896年6月)、昭和三陸津波(1933年3月)等の三陸の災害の歴史を防災に生かした3.11以前からの地域の取組について学んだ。



2日目

普代村のくろさき荘を会場に、元応援隊で山形大学地域教育文化学部講師の熊谷誠さんに「地域防災と岩手の地域(まち)づくり」と題し、岩手県沿岸を軸に前日の野外研修の解説も加えながらお話頂いた。地球の変動がもたらす地震・津波・水害など遥か昔から繰り返されてきた災害は、今日も明日も続いていくものであること、その災害に地域の人々が悲しみ苦しみを乗り越えて、知恵を結集しながら歴史をつないできたことを改めて学んだ。



- 普代村緊急避難路は、普代中学校校舎の脇から三陸道に上がるように東日本大震災津波発災の後に整備された。同研修の際は、事前に管理者である三陸国道事務所の許可を得て、実際に避難路を登る体験をした。
- 同研修会実施については、三陸国道事務所久慈出張所、普代村、普代村教育委員会、普代中学校、普代小学校、くろさき荘、NPO法人体験村・たのはたネットワーク、北三陸認定ガイドクラブほか関係者に多大なる協力を頂いた。

10月・11月

「ジオさんぼなのだ」を企画・運営(10月1日・野田村)

10月2日開催の県主催「三陸ジオパークフォトロゲイニング in のだ」に合わせ、同イベント前日に三陸ジオパーク認定ガイドと野田村を巡るまち歩きツアー「ジオさんぼなのだ」を実施。応援隊が企画から当日の運営まで支援し、三陸ジオパーク推進協議会主催・県北広域振興局共催で開催した。翌日のフォトロゲイニングイベントにも応援隊が運営を支援。他の隊員も一般参加者として県外からの参加者とともに秋の野田村を楽しんだ。



「ぼうさいこくたい 2022in 神戸」に参加(10月22日～23日・兵庫県神戸市)

神戸市で開催された「ぼうさいこくたい」に応援隊が参加し、岩手県のプレゼンブース出展等の支援を行った。

当日イベントや神戸市の震災に関する施設や設置された祈念碑等を配置先事業である三陸防災復興プロジェクトのSNSでレポートした。



三陸ジオパークの支援

応援隊は、2014年から継続して三陸ジオパークの推進を支援しており、2022年度は、翌年の日本ジオパーク再認定審査に向け、三陸ジオパーク推進協議会を地域とともに支援する様々な取組みを行った。

- 県外のジオパーク視察や地域ごとの研修会、商業施設等でのイベントを開催。
- 同協議会が発行する広報紙「ジオだより」では、三陸ジオパークの北部・中部・南部をそれぞれ支援する応援隊が交代で、ジオサイトの紹介や地域の歴史、イベントのレポートなどを寄稿している。

ジオだより第81号より

ジオだより第86号より

ジオだより第88号より

推進員が記者となってお伝えするコーナー

記者：菊池 啓(いわて復興応援隊/岩手県沿岸広域振興局配置)

ついでが並ぶ場所～
らした大津波の襲
規模や状況等)、
なというメッ
と、あるいは亡
するために石に文

ジオサイト

大槌の津波記念碑(明治・昭和) 両石の津波記念碑(明治・昭和)

ジオパークのサイト、今回は金石市唐3つ時代の大津波を紹介いたします。

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝え

毎回いろいろな情報を掲載いたしますので、どうぞお楽しみに！
今回の記者：町田 恵太郎(いわて復興応援隊)

塩から始まる地域のつながり

今回は10月2日(日)に野田村で開催される「三陸ジオパークフォトロゲイニングinのだ」に関連して、新釜直煮製法で作られる野田村の特産品『のだ塩』のお話を書きたいと思っています。私が塩作りの説明をする際には、まず下記のようにお話しします。

沿岸部は夏になると太平洋側から『やませ』という冷たい風が吹いて昔は冷害が多く発生し、農作物などが育ちにくい地域でした。貯蔵庫がない時代は、食べ物を保存するのに大量の塩が必要なので、当時は北上山地を越せば塩一升が米一升に変わる価値も持っていたため、沿岸部の人たちは鉄鍋で海水を煮詰めて塩を作り、牛の背に乗せて盛岡市などの内陸へ行き、米などの穀物と物々交換をしていたのです。

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝えするコーナー

毎回いろいろな情報を掲載いたしますので、どうぞお楽しみに！
今回の記者：里館 徹(いわて復興応援隊/宮古地域振興センター)

第12回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会

取川大会に参加しました。
ジオパーク全国大会が10月21日～石川県白山市で開催されました。会式と分科会として23日のポスターに参加してきました。オープニングセレモニーは「か」と「御酒(ごんしゅう)」から始まりました。郷土に伝わる指定無形文化財としてこれもジオなのだと思えるのでスタートしました。セレモニーのあと真鍋真氏による基調講演「約100万種の動植物が数十年で絶滅を迎えている」という話が印象に残りました。

分科会①
午後からは「ジオパークから文化」に参加しました。金沢工業大学連携事務局福田次長様を中心に記念を取り組み再編集してエコノミーを上げていこうと言う事で経済環境のキーワードで繋ぐという早達7つの班に分かれ、それぞれにはどうすればよいか意見交換をします。私の班はそれぞれの地域の問題点の一つにして内容をまとめていき、のリーダーとなった福島県磐梯町のDXに詳しくまた色々なアイデアを

- 三陸ジオパーク構成市町村長が参加するジオツアーを実施。応援隊が中心となって、三陸ジオパークの北部・中部・南部ごとにツアーを企画し、各市町村や三陸ジオパーク認定ガイドと協力し当日のツアー運営をサポートした。



12月

『防災を学ぶ場づくりプロジェクト 学び合いワークショップ』参加(12月6日陸前高田市)



陸前高田グローバルキャンパスで行われた防災のワークショップに参加。避難所体験プログラムでは、陸前高田第一中学校での事例をもとに、避難所での一人あたりのスペース(3㎡)で実際に寝ころびながら、いかに隣同士の距離を確認した後、地元の住民の方々と屋外で炊き出しを体験。炊き出しは、レンガを組んで簡易的な釜戸から作りから行い、米を炊き上げ、自分のスペースに戻って防災食品とともに実食した。(コーディネートは、一般社団法人トナリ)

令和4年度第2回いわて復興応援隊研修会実施(12月15日・岩手県公会堂)

2022年の活動を振り返り、隊員それぞれが「これ!」という推しの取組を選び、その取組の背景、経緯、地域や関係者との連携について共有。応援隊(復興支援員)としての取組をどのようにして地域や支援事業につなぐのか、どう展開していくのかなどディスカッションした。この研修が、いわて復興応援隊の最後の研修となった。



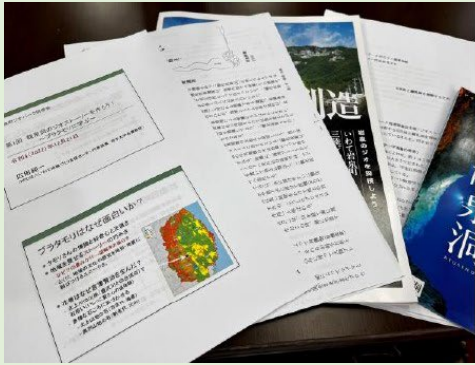
栗駒山麓ジオパーク現地視察(12月16日～17日、宮城県栗原市)

2008年の岩手・宮城内陸地震で発生した産地災害の経験をもとに、自然災害や防災の教育に力をいれている栗駒山麓ジオパークを応援隊が視察し、同推進協議会事務局関係者や山形大学の熊谷誠さん(元応援隊)とジオパーク推進の取組と課題、特にジオガイドの養成やガイド会の運営について情報を共有した。(三陸ジオパークの課題解決に向けた視察)



『龍泉洞のジオストーリーを作ろう!』に参加(岩泉町・12月21日から全3回)

岩泉町の龍泉洞をテーマに、ジオストーリーを作る研修会にガイドやジオの関係者と共に参加。「龍泉洞の地底湖はなぜきれいなのか?」「龍泉洞の水はどこから来るのか?」「龍泉洞はなぜここにできたのか?」「龍泉洞はどのようにして観光地となったのか?」の4つテーマにわかれ、班ごとのWSでストーリーを組み立てていく作業を行った。WSのほか実際に龍泉洞に入り、ガイドに説明を受けながらイメージを確認する作業も班ごとに実践し、年明け2月の発表までにストーリーの完成を目指した。



1月・2月

三陸ジオパークだよ!～ジオタウン@釜石～開催支援(1月7日・8日)

応援隊が企画から準備、調整、当日の運営、開催周知に至るまで中心となり、関係機関の協力を得て開催した三陸ジオパークPRイベント。イベントのチラシほかイベントマップ、各種POPも制作も応援隊が全面協力を行った。

会場:イオンタウン釜石

主催:三陸ジオパーク推進協議会

共催:NPO 法人日本ジオパークネットワーク、公益財団法人イオン環境財団

協力:イオンタウン釜石、イオンスーパーセンター釜石店

内容:三陸ジオパークに関する「クイズラリー」「アンモナイトレプリカ作り」「さんりくジオパークかわらばん作品展」岩石標本展示「ご当地キャラクターとの写真撮影」他

三陸ジオパークだよ!
～ジオタウン@釜石～
2023.1.7(土)・8(日) 10:00～16:00
イオンタウン釜石 (岩手県釜石市港町2丁目1-1)

参加無料

【会場】館内全域
三陸ジオパークでクイズラリー
三陸ジオパークエリア沿岸16市町村からのクイズ問題が館内のあちこちに登場!
参加者は「さんりくジオパーク」の子どもたちが集めた三陸ジオパークの魅力～「地域で見つけたジオパーク」をテーマに、岩泉町、釜石市、気仙郡(大船渡市・陸前高田市・住田町)の子どもたちがまとめた、力作ぞろいのかわらばん作品を展示します。(1月15日まで観覧)

【会場】2階センター通路
さんりくジオパークかわらばん2022作品展
子どもたちが集めた三陸ジオパークの魅力～「地域で見つけたジオパーク」をテーマに、岩泉町、釜石市、気仙郡(大船渡市・陸前高田市・住田町)の子どもたちがまとめた、力作ぞろいのかわらばん作品を展示します。(1月15日まで観覧)

【会場】2階3階フロア全域
プチ体験!三陸ジオガイドツアー
ジオタウンでジオパーク体験!
三陸の有名な景勝地やどこにも見つかるお話を聞いてみよう!

【会場】2階3階フロア全域
アンモナイトレプリカ作り
ご当地キャラクターと写真を撮ろう!!
イオンタウン釜石内のご当地ゆるキャラが出没!
あなたもご当地キャラクターと会えるかな?

お問い合わせ先 三陸ジオパーク推進協議会 (岩手県釜石市港町2丁目1-1) ☎ 0193-64-1230
☎ info@sanriku-geo.com

協賛: 三陸ジオパーク Sanriku Geopark, AEON イオン環境財団, 日本ジオパークネットワーク, AEON TOWN イオンタウン



糸魚川ユネスコ世界ジオパークを視察(1月24日～25日・新潟県糸魚川市フォッサマグナミュージアムほか)

次年度の三陸ジオパーク再認定審査に向け、前回の日本ジオパーク委員会からの指摘事項の一つである化石・鉱物等の保全の在り方を検討するため、三陸ジオパーク認定ガイドで北部エリアを担当する応援隊が三陸ジオパーク内の採掘・販売事業者と三陸ジオパーク推進協議会事務局職員、県北沿岸振興局担当職員と共に糸魚川ジオパークを視察し、情報共有のほか再審査に向けての助言を受けた。(応援隊の活動を地域につなげていくため取組み)



龍泉洞のジオストーリーを作ろう！発表会を報告(2月17日・岩泉町)

岩泉町の龍泉洞をテーマにジオストーリーを作る研修会が12月21日から全3回開催され、3回目のこの日、ジオストーリー完成の発表会が行われた。ジオパークが地域に根付いていく大切な取組の一つとして応援隊が参加し発信した。

応援隊のコメント 互いへの労いの言葉や参加して良かったという感想が飛び交う、とても良い雰囲気の中で今回の取組みは(一つの)幕を閉じました。同様の取組みが三陸ジオパーク全体に広がっていけばいいなと切に思いました。



3月

人気映画の聖地「山田町」のスポットを紹介

大ヒット上映中の人気映画に出てくる場所(聖地)として、「三陸鉄道織笠駅」「後ろ戸がある山田湾展望広場」「主人公の実家跡地にある電波塔付近の後ろ戸」を実際に辿りながらSNSで紹介した。

応援隊のコメント 後ろ戸はかなりリアルに作られていて早速戸を開いて写真を撮りました。宮古では偶然にも三陸鉄道の職員さんが来ていてお話を聞くと映画の効果で織笠駅は多くのファンの方が訪れているそうです。これを機にさらに三陸を訪れてくれる事を期待したいです。最後はしっかり戸を閉めて帰りました。何事も最後はしっかりと閉めたいですね。



宮古市移住定住情報ポータルサイトで応援隊が紹介される

日々の暮らしを楽しむ人々を紹介しながら、地域の魅力を伝える、宮古市の移住定住情報ポータルサイト「住めば宮古」が公開され、同市に移住した応援隊が紹介された。

三陸観光プランナー養成塾実施支援(3月8日・陸前高田市)

2022年度最後の三陸DMOセンター主催「三陸観光プランナー養成塾」の実施を支援。新規のプランナーを中心に15名が参加し、陸前高田市で体験交流プログラム等、様々な活動を行う特定非営利活動法人 SET の視察研修とプランナーによる活動発表会を行った。大船渡市観光物産協会の職員として活躍する元応援隊もプランナーとして参加し「大船渡の観光問題をみちのく潮風トレイルで解決する」と題し発表した。

三陸観光プランナー養成塾には、これまで応援隊や地域おこし協力隊など観光やまちづくりに関わる多くの人材が参加。過去の実施報告は、三陸DMOセンターが運営する「さんりく旅するべ・三陸取材レポート」で閲覧できる。



いわて復興応援隊の現地活動終了

2012年10月からスタートして10年6か月。岩手県沿岸を中心に地域とともに活動してきた「いわて復興応援隊」の活動は、2023年3月31日をもって終了となった。

最終年度活躍した隊員が応援隊SNSで感謝のメッセージを投稿した。

いわて復興応援隊公式 Facebook の投稿からメッセージを一部紹介

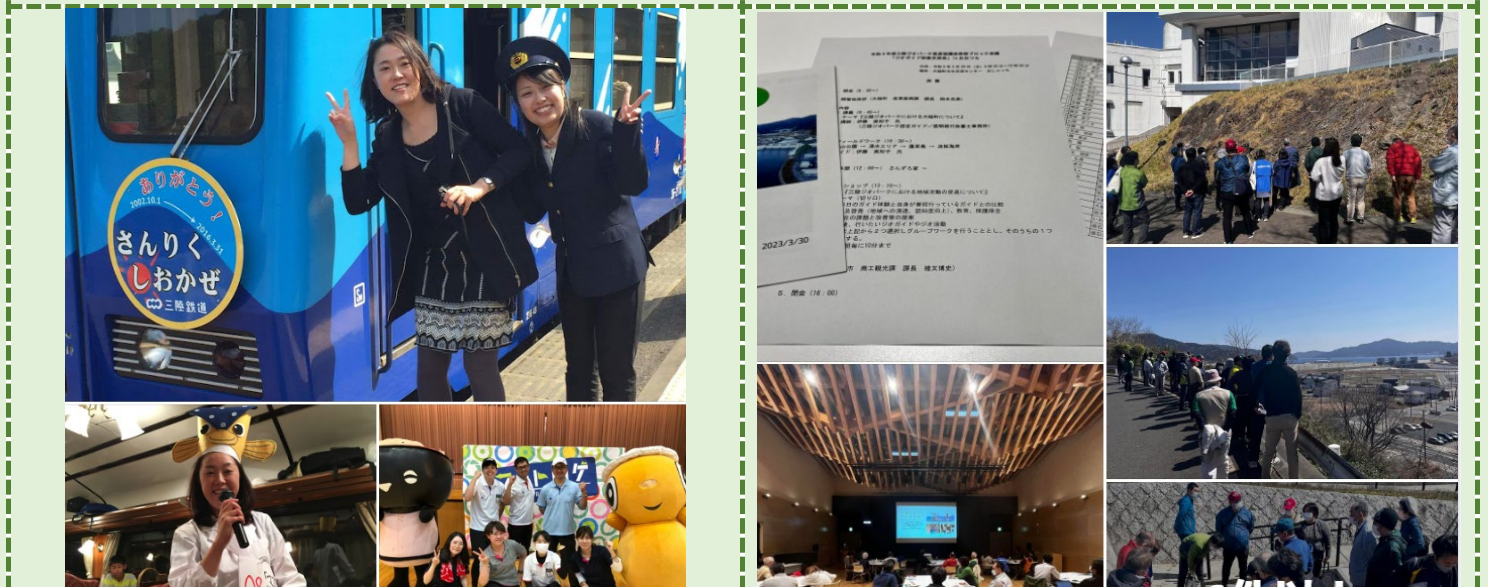
<https://www.facebook.com/iwate.fukko.ouen>



自分には何ができるか、何をすべきか、何をしたいかを真剣に考える日々でした。今後は応援隊の活動を通して得た知見と人脈を大切にしながら移住して来たこの地で生まれた子供が誇れる地元になるよう三陸漁家の一員として、大人としての役割を果たして行きたいと思います(田川 深青)

応援隊になる以前は、いわて沿岸地域の市町村名さえ碌に把握していない”ド素人”だったので、この2年間は沿岸に貢献できたぞ！という気持ちよりも、自身の学びの方が多かったなあと感じます。

とても楽しい2年間でした！(及川 理香子)



田野畑村産業開発公社にて販促サポート、その後盛岡市マリオス内にあった三陸総合振興準備室を経て岩手県庁観光プロモ室に異動し約10年。最近では三陸地域での人材育成養成等熟等の進行サポート、又観光ポータルサイト「さんりく旅するべ」での取材・WEBライティング業務等を通じ、三陸地域を駆けずり回り、地域の魅力を県内外の方にお伝えしてきました。大変な時もありましたが、三陸地域の活性化に少しでもお役に立てましたら幸いです。(田村 絵里)

2018年6月の着任以来、釜石市と大槌町を中心に活動してまいりましたが、三陸地域の皆様との出会いはわたしにとって大きな財産となりました。これまで誠にありがとうございました！(泣)

この4月からは、株式会社かまいし DMCにてお世話になることとなりましたので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます！(菊池 啓)

岩手県 移住ポータルサイト
「イーハトー部に入ろう！」

いわて暮らし移住定住ポータルサイト



IJU.PREF.IWATE.JP

いわて暮らし移住定住ポータルサイト「イーハトー部に入ろう！」

これまで、沿岸地域を含む岩手県全体の移住に関する支援をさせていただきました。たくさんの方々にお会いする機会をいただき、これまでにない経験をさせていただきました。お役に立てたかわかりませんが、精いっぱい取り組ませていただきました。ご指導いただきました皆様、本当にありがとうございました。私は退任いたしますが、今後も、いわて復興応援隊を宜しく願います。(高橋 美紀)



在職中は公私にわたり大変お世話になりました。約4年に渡った活動も一区切りつきました。応援隊でしか経験出来なかった事も多くあり、また関係する皆様のお力添えがなければここまで来る事が出来なかったと思います。

生まれ育った三陸に恩返しの意味を込めてこれからも関わっていききたいと思います。(里館 徹)



これまで、三陸鉄道に席を置き三陸鉄道の情報を発信してまいりました。これも多くの方々のご協力、地域の皆様の温かいご声援、ご支援をいただいたからこそだとあらためて感謝いたしますとともに御礼申し上げます。

復興応援隊は退任いたしますが、立場は変えて引き続き三陸鉄道から情報を発信してまいります。今後とも、よろしく願います。(鷲塚 由美子)

1枚目の写真は先日、野田村の漁師さんの所へご挨拶をしに行った時の風景です。プカプカとゆっくり揺れる船の上で、漁師さんと雑談をしている時間は何か懐かしくもあり、私が岩手県に来て沢山新しい事を教えてもらった場所でもあります。

私の今までの三陸での活動や繋がりをもとに、今後も引き続き岩手県と関わりながら一緒に地域を盛り上げていきたいと思っています。(町田 恵太郎)

Facebook に頂いたコメント

「大変お疲れ様でした。有難うございました。(大槌町・I様)」

「大変御世話様になりました!! 感謝感謝です本当にありがとうございました。どうぞ益々お元気でね新しい挑戦をして下さいませ。ご発展を心より祈念申し上げます。(S様)」

「おつかれさまでした。新しいところでもご活躍を祈念申し上げます。(広島県 S様)」



《三鉄ジオトレイン》で早春の碁石へ

今回の三鉄ジオトレインは震災学習列車を体験し、南リアス線で大船渡市へ。車内では震災以前の写真を見比べて、山の形が同じという手がかりから現地を確認しました。欲張りツアーでしたので、急ぎ足となりましたが、絶好の天気にも恵まれて碁石海岸の景勝地を認定ガイドの案内で周遊しました。



盛駅からの参加者と合流し、皆さんで「さんてつだいすきー」パチリ



自生している梅の花を見ながら、認定ガイドの説明に「なるほど」



まっすぐなトンネルを登っているので入口の光が見えています。震災当時の写真と合わせて撮りました。



浜海防波堤が目立つことに気が付きました。磯遊びをくると幸せになれるとか？次回にはサップ船で行きましょう。

《震災から12年経って知ったこと》

田野畑村の明戸海岸には、津波で激しく破壊された防潮堤の震災遺構があります。以前は明戸キャンプ場などがあり、賑わっていた場所です。今は、新しく建設された防潮堤と園地が整備され、キャンプ場はその陸側に守られるような位置に再建されました。今回初めて聞いたのですが、明戸海岸は震災前、原子力発電所の建設の候補地になったことがあったそうです。しかし地域の女性の方を中心に建設に反対する住民運動がおこり、つくられることはなかったのですが、もしもそのまま建設されていたならば、今回の津波災害では非常に大変なことになるのではないかという事でした。この話も地域の歴史で大切な事実の1つです。知らなければ、そして伝える人がいなければ気づかないことです。他の地域に比べて三陸は津波災害が多く、深く入り組んだ地形に押し寄せる津波は高く過します。自分たちの住む地域のことや過去にあった出来事、それにつながる大地の成り立ちを理解し、先人の思いが詰まった土地と自然の上に、いまの私たちの生活があるということを忘れないように伝えていきたいと、改めて思った一日でした。

《こんさち！いわて》

いわてマンガプロジェクトには、たくさんの漫画家さんたちによって岩手県にまつわるエピソードが紹介されています。→「コミックいわてWEB」すぐ読めます！ → <http://comiciwate.jp/> その最後のページに《こんさち！いわて》というコーナーがあります。岩手県公認のV-Tuberの岩手さちが三陸に関する話題や、ジオパークやジオサイトの紹介もしています。



最近公開されて、アクセス数が急上昇の新作アニメもこちらからどうぞご覧ください。↓↓↓ アニメ『ゴールデンゴッド』第5話「巡れ！黄金に輝く海の巻」 - YouTube



配置先が三陸ジオパークということで、たくさんご縁と新たな出会い、そしてジオの観点で地域の魅力を実感し再発見し、とても楽しく業務にあたることができました

地域の皆さま、ジオパーク関係の皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。ジオパークの現地推進担当の隊員のみなさんとは特に一緒にさまざまな取り組みがありましたが、「ジオだより」の発行やジオタウンのイベント開催においては、この応援隊メンバーでなくてはできなかったと思うことが多々あり、大変感謝しています。

最後に発行した「ジオだより」をここで紹介させていただきます。

私は、引き続きジオパーク推進員として、三陸ジオパークの事務局に在籍することになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。(阿部 智子)

編集後記：春は別れと出会いの季節です。三陸ジオパークの現地推進員として紙面を毎回担当してきた「いわて復興応援隊」の隊員も、今号で卒業することになりました。町田隊員「皆さまお世話になりました。来年度からは認定ガイドとしても頑張ります！」 菊池隊員「ジオパークを通して、より広域のより多くの方々とお会いできて、わたしの財産となりました。また、何処かでお会いしましょう！合言葉は“みんな大好きジオパーク！”」 里館隊員「取材していて地域の事が良くわかりました。ジオパークは面白いのでこれからも勉強します。阿部隊員「知識が変わって、景色が変わりました♪」 新たなステージにてお会いしましょう！ ~と~

応援隊が支援する最後の「さんりくジオだより第90号」の編集後記に隊員からのメッセージが記されている。



Until We Meet Again